ONKYO

ホームシアターシステム

BASE-V50

NR-365（ネットワークAVレシーバー）
SWA-V50（サブウーファー）
ST-V50（フロントスピーカー）

BASE-SW50

NR-365（ネットワークAVレシーバー）
SWA-V50（サブウーファー）

BASE-SW77V

NR-365（ネットワークAVレシーバー）
SWA-V50（サブウーファー）

ネットワークAVレシーバー

NR-365

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

Made for iPod iPhone

はじめに.....2
接続をする.....19
電源のオン・オフと基本操作をする.....27
設定をする.....52
オンキヨー製ドックを操作する.....70
その他.....72

特長

AVレシーバー（NR-365）

- 各種サラウンド方式に対応した6チャンネルアンプ
- 信号とノイズ領域との近接を回避して、聴感上のS/Nを向上させる、オプティマム・ゲイン・ボリューム回路
- HDMI（Audio Return Channel、3D、DeepColor、x.v.Color、Lip Sync、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCMに対応）
- Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audioリスニングモード搭載
- ダウンミックスによる、フロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- もともとの音源のまま、ピュアな音を楽しむDirectリスニングモード搭載
- 圧縮された音楽ファイルを、より良い音で楽しむMusic Optimizer™機能搭載
- 192 kHz /24bit D/Aコンバーター搭載
- 極めて高い演算能力を持つ、32bit DSP（Digital Signal Processor）搭載
- LFEチャンネルを持たないソースでも、サブウーファーを効果的に動作させるダブルバス機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、レイトナイト機能搭載（Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD時のみ）
- ネットワーク、USB経由でMP3、WAV、WMA、MPEG4、AAC、FLAC、OggVorbis、Apple Lossless、DSD、Dolby TrueHDフォーマットの音楽ファイルを再生可能
- 新たに正確な信号を作り出し、デジタル信号のゆらぎを排除するPLL（Phase Locked Loop）方式ジッタークリーナー搭載
- デジタル映像/音声信号を、1本のケーブルで伝送可能なHDMI入力4系統、出力1系統装備
- システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- デジタル音声入力端子として、光2系統/同軸1系統装備
- iPod®/iPhone®、USBストレージ、オンキヨー製ワイヤレスUSB LANアダプター UWF-1、Bluetooth USBアダプター UBT-1を接続できるフロントおよびリアUSB端子装備
  * iPod/iPhone、UWF-1およびUBT-1はフロントのみ対応
- インターネットラジオ受信可能
- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定可能（Audyssey 2EQ®）
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、Audyssey Dynamic EQ®機能搭載
- 音量の大小を即時に調整する、Audyssey Dynamic Volume®機能搭載
- 2つまたは3つのスピーカーでも、バーチャル5.1サラウンドが楽しめるT-D（Theater-Dimensional）リスニングモード搭載
- AACデコーダー搭載
- 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する、VLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）をフロントL/Rチャンネルに搭載
- 映画館の音響特性に配慮して高音域が強調された映画音声を家庭での再生に合わせて補正するシネマフィルター機能搭載
- 音声と映像のズレを補正する、AVシンクコントロール機能搭載
- 映像/音声入力が無く、無操作の状態で一定時間経つと、NR-365が自動的にスタンバイ状態に移行する、自動スタンバイ機能搭載
- モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（On Screen Display）機能搭載

サブウーファー

- 高品位な低音増強を可能にするバスレフ技術「AERO（エアロ） ACOUSTIC（アコースティック） DRIVE（ドライブ）」を搭載

フロントスピーカー

- 不織布のコットンを3層重ね、アラミド繊維をハイブリッドした「N-OMF」振動板の採用と、滑らかさやスピード感を引き出す砲弾型イコライザーを装備し、「より硬く、軽く、固有音の少ない」点に着目した改良ウーファーを搭載
- 徹底した振動板のシミュレーションにより、80kHzまでの超高域再生を実現したバランスドームツイーターを採用

ピアノ塗装仕上げの製品について

フロントスピーカーのキャビネットはピアノ塗装仕上げとなっており、表面保護のため、ピアノクリーナーを塗布しています。
そのため、開封時、表面がくすんで見える場合があります。
そのようなときは湿った布などで一度全体をふき取り、その後乾いた布でおふき取りください。

ご注意：布は傷付き防止のため、柔らかいものをご使用ください。

目次

基本的な接続・設定や操作については、同梱の「簡単接続ガイド」と一緒に本書をご覧ください。本書では、それぞれの詳細や応用設定について詳しく説明しています。

はじめに

特長 2
目次 4
安全上のご注意 5
スピーカー取り扱い上のご注意 9
箱の中身を確認する 10
前面パネルと後面パネル（NR-365） 14
リモコン 18

接続をする

接続をする 19
スピーカーを接続する 19
AV機器との接続について 22
AV機器をHDMI接続する 23
外部機器を接続する 24
オンキヨー製RIドックなどと連動させる接続 25
電源コードを接続する 26

電源のオン・オフと基本操作をする

NR-365の電源を入れる・切る 27
電源を入れる 27
電源を切る 27
再生をする 28
接続した機器を再生する 28
USB、ネットワーク内のファイルを操作する 30
表示されるアイコンについて 31
iPod/iPhoneをUSBで再生する 31
USBストレージ内の音楽ファイルを再生する 32
radiko.jpを聴く 33
vTunerインターネットラジオを聴く 33
他のインターネットラジオを登録する 34
ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する 36
リモート再生する 37
共有フォルダ内の曲を再生する 38
基本機能を使う 40
自動スピーカー設定を使う 40
リスニングモードを使う 43
ホームメニューを使う 49
スリープタイマーを使う 50
表示部の明るさを変える 50
表示を確認する 51
一時的に音量を小さくする 51
ヘッドホンで聴く 51

設定をする

設定をする 52
OSDセットアップメニュー 52
Quick Setupメニューを使う 52
音声設定を使う 54
Setupメニュー（ホーム）を使う 56
セットアップメニュー項目 56
HYBRID STANDBYインジケーターについて 57
入力端子の割り当て（1.Input Assign） 58
スピーカー詳細設定（2.Sp Config） 59
スピーカー距離（3.Sp Distance） 60
スピーカー音量レベル（4.Level Cal） 60
音の設定・調整（5.Audio Adjust） 61
入力ソースの設定（6.Source Setup） 62
ハードウェア設定（7.Hardware） 65
HDMI設定（8. HDMI Setup） 65
ネットワーク（9. Network Setup） 68

オンキヨー製ドックを操作する

オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する 70
オンキヨー製ドックを使う 70
iPod/iPhoneを操作する 71

その他

困ったときは 72
ファームウェアの更新について 78
RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー / レコーダーをご使用になるには 82
HDMIについて 85
ネットワーク/USBについて 86
ライセンスと商標について 90
主な仕様 91
オンキヨー　ご相談窓口・修理窓口のご案内 93
修理について 94

修理を依頼する前に

NR-365をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。

電源を入れた状態で本体の**INPUT**（インプット）◄ボタンを押したまま、⏻**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを押してリセットしてください（→ P.72）。

安全上のご注意
安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使い方をすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使い方をしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

⚠ 警告	誤った使い方をすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。
⚠ 注意	誤った使い方をすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⃠ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

⚠ 警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■ 通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

NR-365には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない（NR-365の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■ 水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

⚠ 警告

■ ETHERNET端子には電話回線を接続しない

禁止

本機のETHERNET端子に以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。
- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機（PBX）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔、ダクトから異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

- アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 長時間大きな音で使用しない

禁止

NR-365をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■ **不安定な場所や振動する場所には設置しない**

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

注意

スピーカーを壁に取り付けるときは、壁の材質、また、桟などの位置に注意してください。（ネジの保持強度に大きな差が出ますので、販売店にご相談ください。）

■ **本機の上に 10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない**

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。

■ **配線コードに気をつける**

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ **表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する**

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

■ **電源コードを束ねた状態で使用しない**

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ **電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない**

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ **長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く**

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ **電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む**

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない**

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■ **お手入れの際は電源プラグを抜く**

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■ **通風孔の温度上昇に注意**

高温注意

NR-365の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ **音量を上げすぎない**

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

⚠ 注意

■ **キャッシュカード、フロッピーディスクなど、磁気を利用した製品を近づけない**

禁止

磁気の影響でキャッシュカードやフロッピーディスクが使えなくなったり、データが消失することがあります。

移動時のご注意

■ **移動時は電源プラグや接続コードをはずす**

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ **本機の上にものを乗せたまま移動しない**

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。落下や転倒してけがの原因となります。グリルネットやスピーカーユニット部を持って移動させないでください。

■ **機器内部の点検について**

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ **本機のお手入れについて**

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

スピーカー取り扱い上のご注意

■お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどいときは、中性洗剤をうすめた液に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れをふき取ったあと乾いた布で仕上げをしてください。固い布や、シンナー、アルコールなど揮発性のものは、ご使用にならないでください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどをお読みください。
ピアノ仕上げのスピーカーのお手入れは、市販されているピアノクリーナー（鏡面ツヤ出し用）をご使用ください。塗面に付いた手アカや汚れをすっきり取り、美しい光沢に仕上がります。お手入れ後はホコリや手アカが付きにくくなり、付着しても乾拭きで楽に取れます。
スピーカーのグリルネットにほこりがついたときは、掃除機で吸い取るかブラシをかけるとよくほこりを取ることができます。

■テレビやパソコンとの近接使用について

一般にテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。
本機は防磁設計ではありません。ブラウン管テレビを本機の近くでご使用になると、色むらやひずみが生じる場合があります。そのときは、本機をテレビから離してください。

ご注意

- テレビなどの近くに置く場合、テレビから出ている電磁波の影響でオーディオ機器の電源を切っていてもスピーカーから雑音を発生することがあります。この雑音が気になる場合は、テレビからさらにスピーカーを離してご使用ください。
- 本機のスピーカーユニットには、非常に強力な磁石を使用しております。スピーカー前面にドライバー等の金属を近づけないでください。吸い付けられてけがをしたり、振動板が破損する原因となります。また、キャッシュカード、フロッピーディスク等の磁気を利用した製品を近づけないでください。磁気の影響で製品が使えなくなったり、データが消失することがあります。

■取り扱い上のご注意

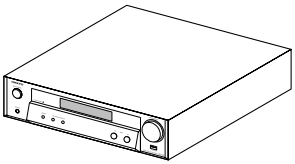
本製品は通常の音楽再生では問題ありませんが、次のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

① FMチューナーが正しく受信していないときのノイズ
② 発振器や電子楽器等の高い周波数成分の音
③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
④ マイク使用時のハウリング
⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
⑥ アンプが発振しているとき
⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

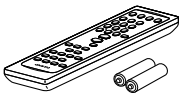
箱の中身を確認する

ご使用の前に、次のものがそろっていることをお確かめください。（ ）内の数字は数量を表しています。

- AVレシーバー（1）
（NR-365）



- リモコン（RC-856S）（1）
- 乾電池（単3形、R6）（2）

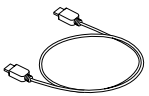


- 電源コード（1）（→ P.26）

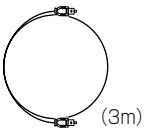
- 取扱説明書（本書）（1）
- 簡単接続ガイド（1）
- 保証書（1）
- ユーザー登録カード（1）

- 測定用マイク（1）（→ P.41）

- (NR-365Vのみ)
HDMIケーブル（2）

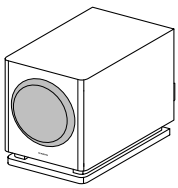


- (NR-365Vのみ)
オーディオ用
光デジタルケーブル（1）

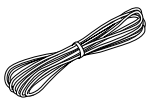


■ BASE-V50

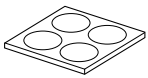
- サブウーファー（1）
（SWA-V50）



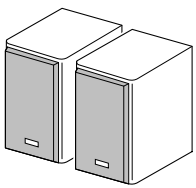
- スピーカーコード（1）
（サブウーファー用）



- サブウーファー用
コルクスペーサー
（1組<4個>）

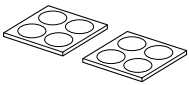


- フロントスピーカー（2）
（ST-V50）

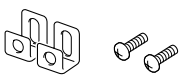


- スピーカーコード（2）
（フロントスピーカー用）

- フロントスピーカー用
コルクスペーサー
（2組<8個>）

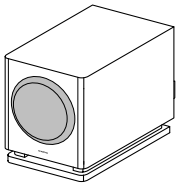


- スピーカー金具（2）
- 壁掛けネジ（2）

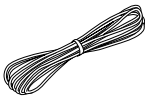


■ BASE-SW50

• サブウーファー（1）
（SWA-V50）

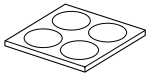


• スピーカーコード（1）
（サブウーファー用）



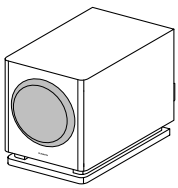
赤線入り（3m）

• サブウーファー用
コルクスペーサー
（1組<4個>）

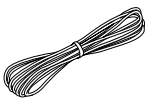


■ BASE-SW77V

• サブウーファー（1）
（SWA-V50）

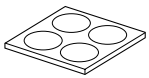


• スピーカーコード（1）
（サブウーファー用）

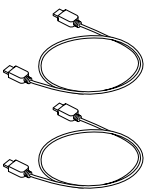


赤線入り（3m）

• サブウーファー用
コルクスペーサー
（1組<4個>）



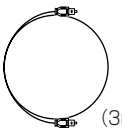
• HDMIケーブル（2）



（3m）

（1.5m）

• オーディオ用
光デジタルケーブル（1）

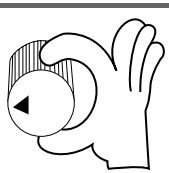


（3m）

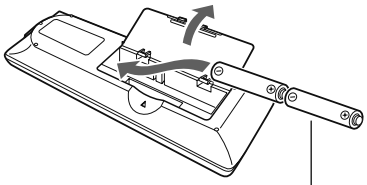
カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。



■乾電池を入れる



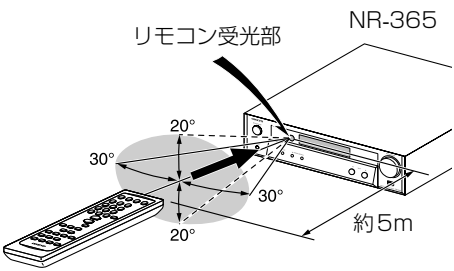
電池（単3形、R6）

ご注意

- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと、腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

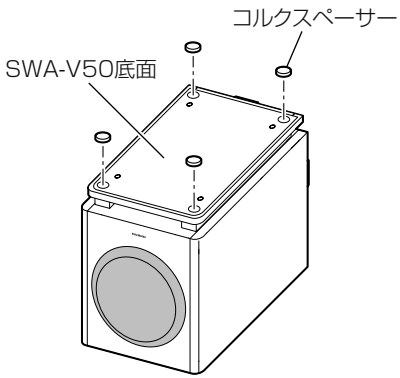
■リモコンの使いかた

リモコンをNR-365のリモコン受光部に向けて使用してください。



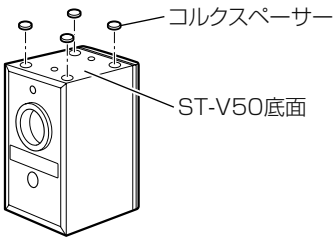
■サブウーファー（SWA-V50）用コルクスペーサー

より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。



■フロントスピーカー（ST-V50）用コルクスペーサー

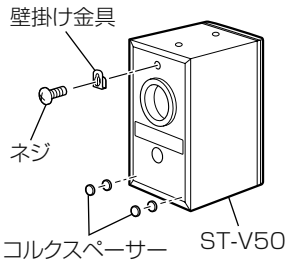
より良い音でお楽しみいただくために、付属のコルクスペーサーのご使用をおすすめします。また、コルクスペーサーを使用することで、すべりにくく安定して設置することができます。



■壁掛けで使うには

付属のフロントスピーカー ST-V50は付属の壁掛け金具を使って壁に掛けることができます。

ST-V50はスピーカーの上下を逆にし、付属のネジを使ってキャビネットの背面に付属の壁掛け金具を取り付けます。付属のフロントスピーカー用コルクスペーサーを図の位置に2枚重ねて貼り付けると、安定した設置ができます。また、グリルネットは取りはずせますので上下逆にすることができます。



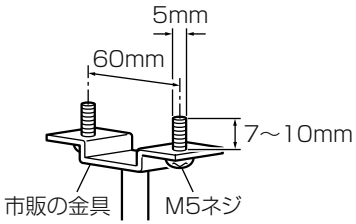
ご注意

- 壁に掛けて使用する場合、壁の強度に十分注意してください。壁はその材質、また桟（さん）などの位置により、ネジの保持強度に大きな差が出ますので、取り付けに際しては十分注意してください。
- 壁につけるネジは、頭の直径が4mm以上9.5mm以下、ネジの直径が4mm以下で、できるだけ太く、長いものをご使用ください。（壁等に取り付ける際は、専門施工業者へ依頼することをおすすめします。取り付けの不備によって損害や事故が発生した場合、当社では一切責任を負うことができませんのでご了承ください。）

■市販のスタンドや金具を使って固定するには

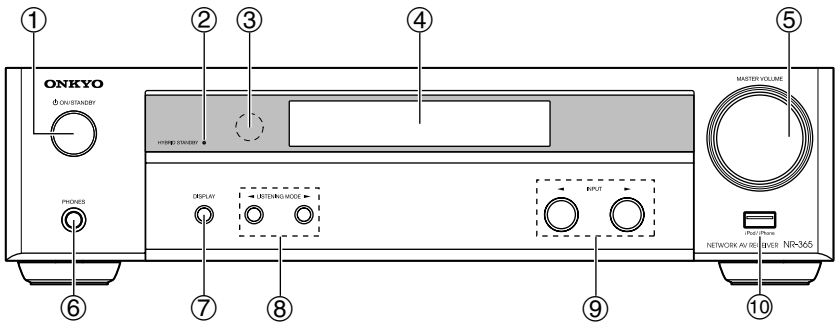
市販のスタンドや金具を使用できるように、スピーカーの背面にM5用ネジ穴1個、底面にピッチ60mmでM5用ネジ穴を2個設けています。取り付け方法については、ご使用になるスタンドや金具の説明書をご覧ください。

スタンドや金具をご使用になるときは、スタンドの厚みを差し引いた有効ネジ長が710mmのものをご使用ください。



前面パネルと後面パネル（NR-365）

前面パネル



詳細については、（ ）内のページをご覧ください。

① **⏻ON/STANDBYボタン（27）**
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **HYBRID STANDBYインジケーター（57）**
HDMIスルー、ネットワークスタンバイ機能が有効に設定されているときに、スタンバイになると点灯します。

③ **リモコン受光部（12）**
リモコンからの信号を受信します。

④ **表示部（15）**

⑤ **MASTER VOLUMEつまみ/インジケーター（29）**
音量をMin・1…79・Maxの範囲で調整します。

⑥ **PHONES端子（51）**
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

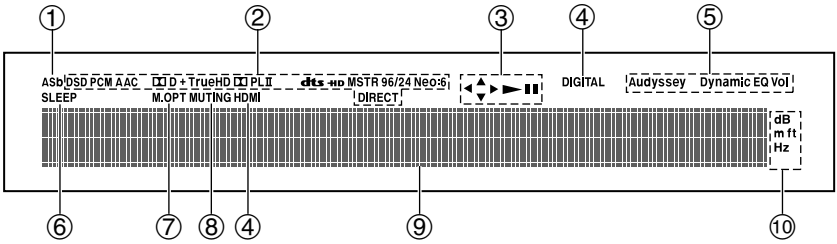
⑦ **DISPLAYボタン（51）**
表示部の情報を切り換えます。

⑧ **LISTENING MODE ◄/►ボタン（43）**
リスニングモードを選びます。

⑨ **INPUT ◄/►ボタン（29）**
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。

⑩ **USB端子（24）**
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。また、iPod/iPhoneを接続して、音楽ファイルを再生できます。

表示部



詳細については、（ ）内のページをご覧ください。

① **ASb表示（65）**
自動スタンバイ設定中に点灯します。

② **リスニングモード、デジタル音声入力信号フォーマット表示（43、64）**
入力されているデジタル信号の種類、およびリスニングモードを表示します。

③ **►、❚❚、カーソル表示（31）**
NET（ネット）、USB操作時に点灯します。

④ **音声入力表示**

DIGITAL（デジタル）表示
デジタル信号が入力かつ選択されているときに点灯します。

HDMI表示
HDMI信号が入力かつ選択されているときに点灯します。

⑤ **Audyssey（オーディシー）/Dynamic EQ（ダイナミック）/ Vol（ボリューム）表示（40、62、63）**

Audyssey表示
自動スピーカー測定中に点滅します。また、「**Audyssey**」が有効に設定されているときに点灯します（➔ **P.40**、**62**）。

Dynamic EQ表示
Dynamic EQが有効に設定されているときに点灯します（➔ **P.62**）。

Dynamic Vol表示
Dynamic Volumeが有効に設定されているときに点灯します（➔ **P.63**）。

⑥ **SLEEP（スリープ）表示（50）**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

⑦ **M.OPT表示（55）**
ミュージックオプティマイザーが有効に設定されているときに点灯します。

⑧ **MUTING（ミューティング）表示（51）**
ミューティングが働いているときに点滅します。

⑨ **多目的表示部**
入力信号の様々な情報を表示します。
DISPLAY（ディスプレイ）ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットやリスニングモードなどを表示します。

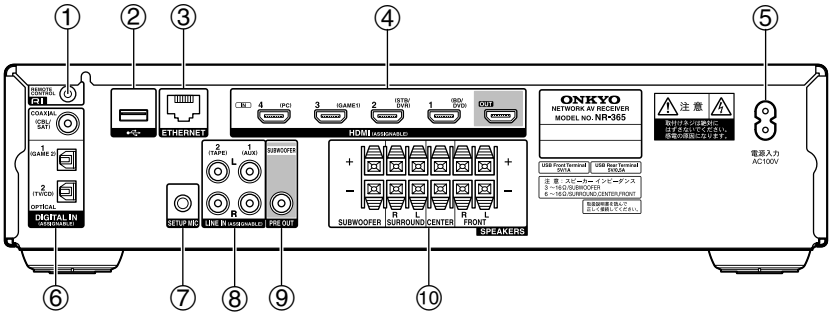
⑩ **単位表示**

Hz（ヘルツ）表示
クロスオーバー周波数の設定時などに点灯します。

m/ft（メートル フィート）表示
スピーカー距離の設定時などに点灯します。

dB（デシベル）表示
スピーカー音量の設定時などに点灯します。

後面パネル



① **R1 REMOTE CONTROL端子**
R1端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。**R1**ケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

② **USB端子**
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

③ **ETHERNET端子**
ホームネットワーク（LAN）と接続するための端子です。イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

④ **HDMI IN/OUT端子**
HDMI IN端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換に割り当てることができます。
HDMI OUT端子
デジタル映像信号とデジタル音声信号をテレビに出力する端子です。

⑤ **電源入力AC100V端子**
付属の電源コードを接続します。

⑥ **DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子**
デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて、入力切換に割り当てることができます。

⑦ **SETUP MIC端子（41）**
付属の測定用マイクを接続して、自動スピーカー設定を行います。

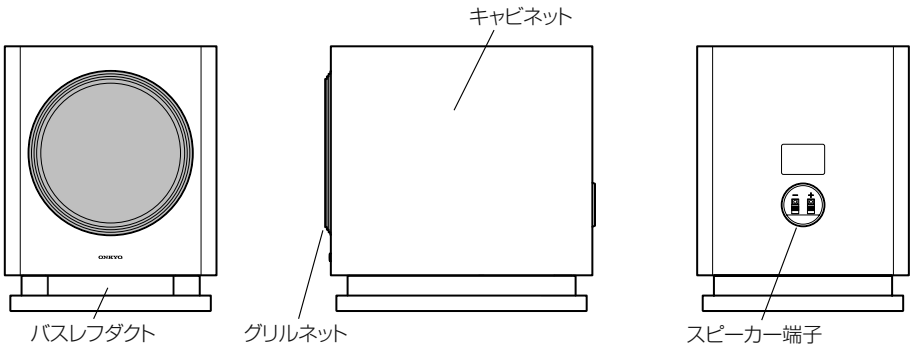
⑧ **LINE IN端子**
アナログ音声信号を入力する端子です。
各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換に割り当てることができます。

⑨ **SUBWOOFER PRE OUT端子**
アンプ内蔵サブウーファーを接続します。

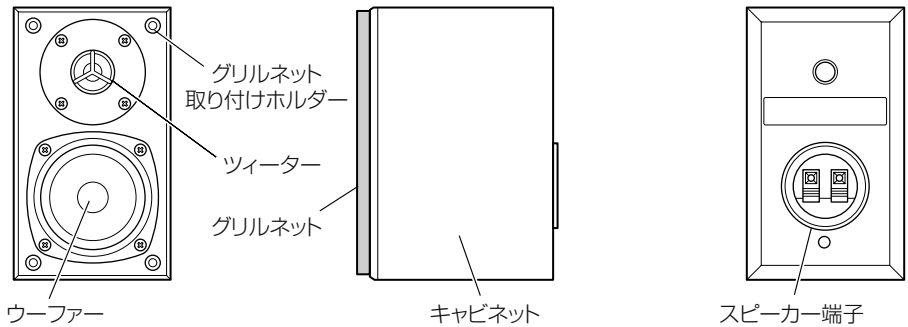
⑩ **スピーカー端子**
スピーカーを接続します。

接続については「接続をする」をご覧ください（→ P.19～26）。

サブウーファー（SWA-V50）



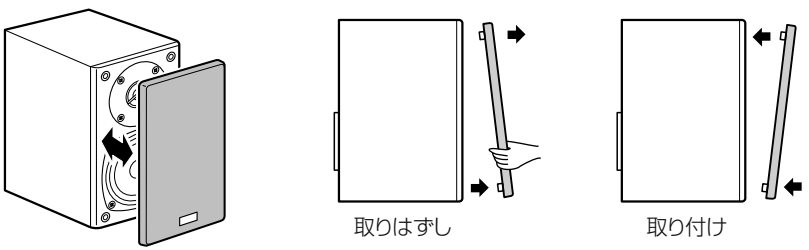
フロントスピーカー（ST-V50）



■ グリルネットの脱着について

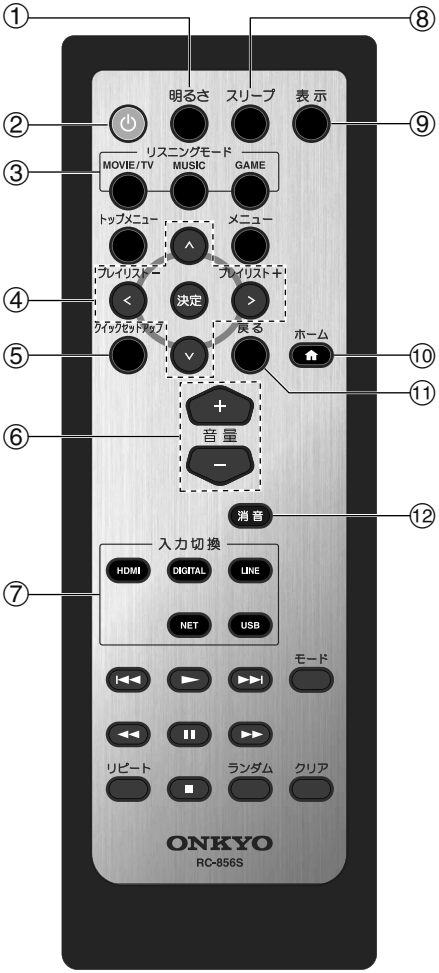
フロントスピーカー（ST-V50）は前面のグリルネットを取りはずすことができます。グリルネットを付けたり、はずしたりするときは次のように行ってください。

1. グリルネットの端を持ち、手前に軽く引っ張り、グリルネットの端をはずします。
2. 同じようにグリルネットのもう1 つの端を手前に引っ張ると、グリルネットは本体からはずれます。
3. 取り付けるときは、グリルネットの四隅にあるピンを本体のグリルネット取り付けホルダーに合わせて押し込みます。



リモコン

NR-365を操作する



（　）内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **明るさボタン（50）**
表示部の明るさを切り換えます。

② ⏻**ボタン（27）**
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

③ **リスニングモードボタン（43）**
リスニングモードを選びます。

④ **∧/∨/</>/決定（ENTER）ボタン**
設定項目を選択します。**決定**ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑤ **クイックセットアップボタン（52）**
NR-365の簡単な設定を行います。

⑥ **音量+/-ボタン（28）**
音量を調整します。

⑦ **入力切換ボタン（28）**
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。

⑧ **スリープボタン（50）**
スリープタイマーを設定します。

⑨ **表示ボタン（51）**
表示部の情報を切り換えます。

⑩ **ホームボタン（49）**
ホームメニューを表示します。

⑪ **戻るボタン**
設定中に1つ前の表示に戻します。

⑫ **消音ボタン（51）**
音を一時的に小さくします。

接続をする

スピーカーを接続する

スピーカーの配置

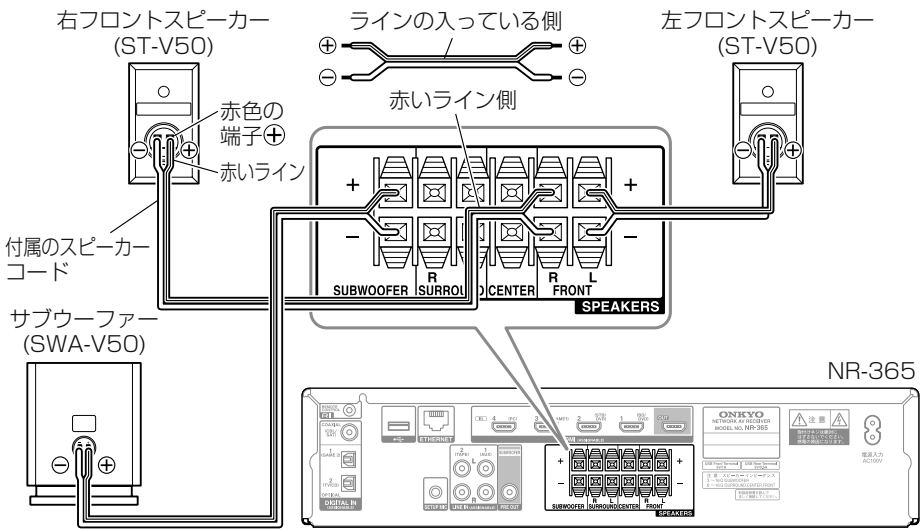
以下の表は、使用できるチャンネル数を示しています。チャンネル数はスピーカーの数によって異なります。
スピーカーの数に関係なく、とても強力かつ充実した重低音効果を発揮するためにはサブウーファーの使用を推奨します。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定（→ P.40）または手動設定（→ P.59）を行ってください。

チャンネル数	2	3	4	5
フロントスピーカー	✔	✔	✔	✔
センタースピーカー		✔		✔
サラウンドスピーカー			✔	✔

スピーカーを接続する

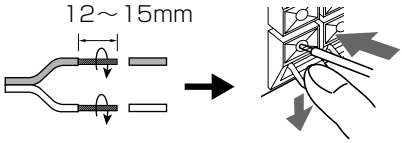
付属のサブウーファー（SWA-V50）とフロントスピーカー（ST-V50）を接続します。ここでは、ST-V50を左右フロントスピーカーとして使用する場合の接続方法を説明します。スピーカーのプラスとNR-365のプラス、スピーカーのマイナスとNR-365のマイナスを接続します。

■2.1チャンネル接続の場合



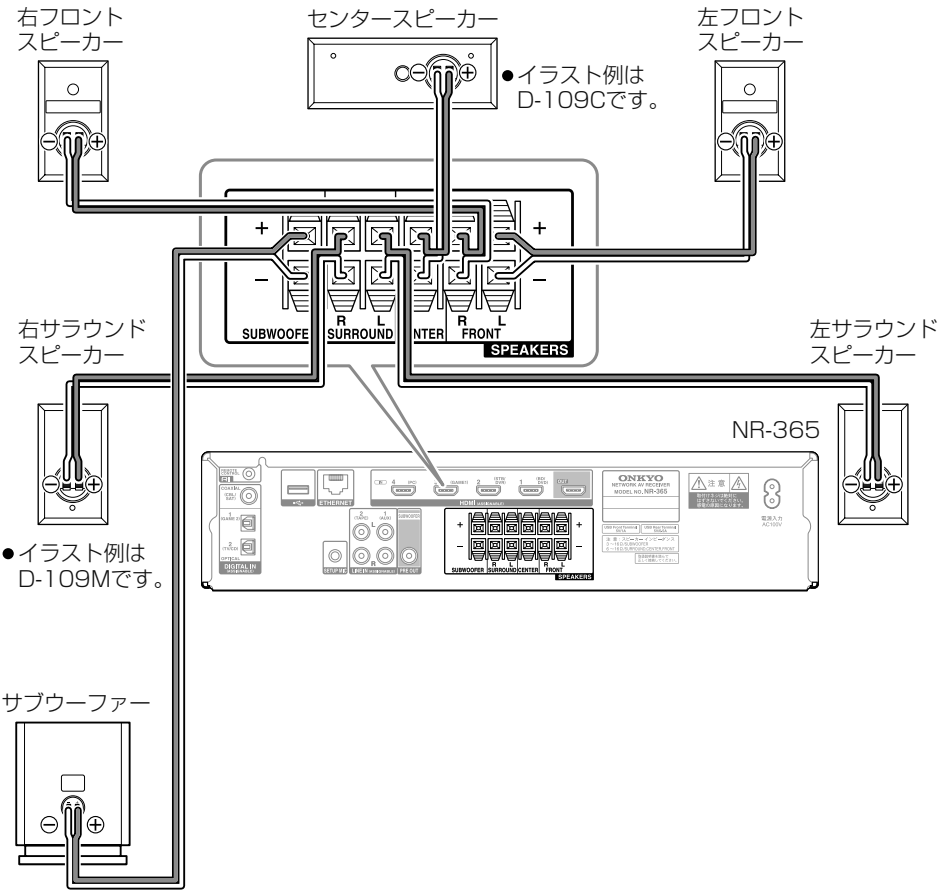
■バネ式スピーカー端子

スピーカーコードの被覆を先端から12～15mm剥ぎ、芯線をしっかりよじります。



付属のスピーカーに加えて別売スピーカー（D-109C、D-109Mなど）をご使用になると、5.1チャンネル音声をお楽しみいただけます。使用されるスピーカーの数によって、接続する端子を選んでください。組み合わせるスピーカーは6Ω以上のものをご使用ください。スピーカーのプラスとNR-365のプラス、スピーカーのマイナスとNR-365のマイナスを接続します。

■5.1チャンネル接続の場合



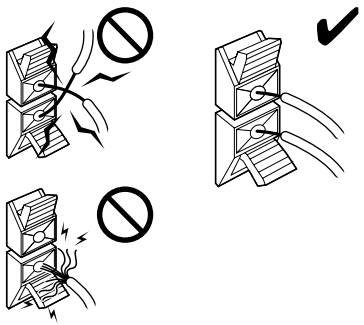
ご注意

- 5.1チャンネル接続の場合は、「2.Sp Config」設定を変更してください（➔ **P.59**）。

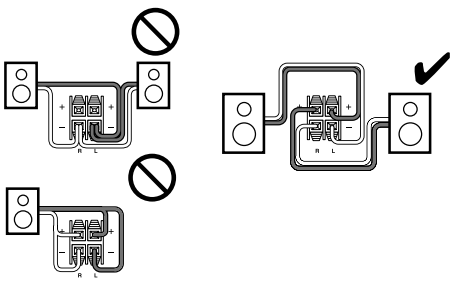
スピーカー接続時の注意事項

以下の注意事項をお読みいただいてから、スピーカーを接続してください。

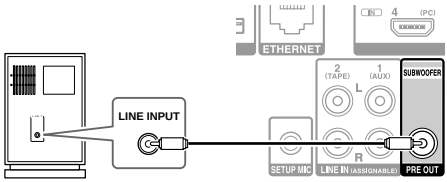
- 接続は電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- スピーカーケーブルを接続するときは、アンプ端子のプラス（+）側とスピーカー端子の(+)側を、マイナス（−）はマイナス（−）とを、各チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違って接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなるなど再生音が悪くなります。各スピーカーケーブルの被覆に色が付いている方をプラス（+）側に接続するなどして間違わないようにしてください。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの芯線をNR-365の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。



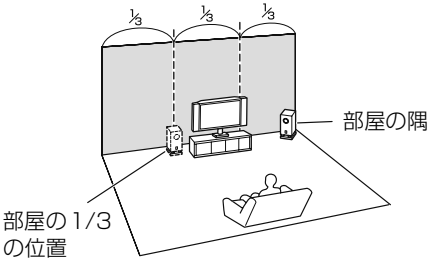
- スピーカー端子に2本以上のコードを接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。



パワーアンプ内蔵サブウーファーを使う



パワーアンプ内蔵
サブウーファー



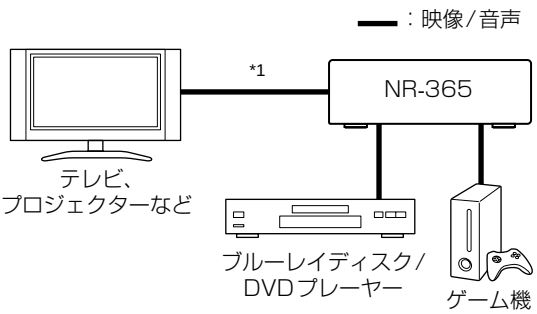
再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

ヒント

- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチはDIRECT（ダイレクト）にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。

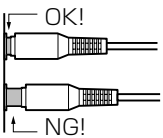
AV機器との接続について

接続イメージ（HDMI接続）



*1 お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、NR-365をHDMIケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルでも接続する必要があります。

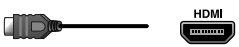
- AV機器の接続を行う場合は、AV機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 電源コードは、すべての接続が完了するまでつながないでください。
- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。
- ケーブル同士の接触を防ぐため、映像・音声ケーブルや電源・スピーカーコードが接近しないようにしてください。



接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

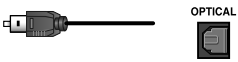
■HDMIケーブル

映像信号と音声信号をデジタル伝送します。



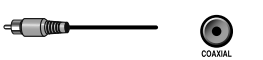
■光デジタルケーブル（OPTICAL）

PCM*2、DolbyDigitalやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は同軸デジタルと同レベルです。



■同軸デジタルケーブル（COAXIAL）

PCM*2、DolbyDigitalやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は光デジタルと同レベルです。



■オーディオ用ピンケーブル

アナログ音声信号を伝送します。

*2 PCM入力信号（ステレオ/モノラル）で利用できるサンプリングレートは、32、44.1、48、88.2、96kHzです。HDMI接続の場合は、176.4、192kHzも利用できます。

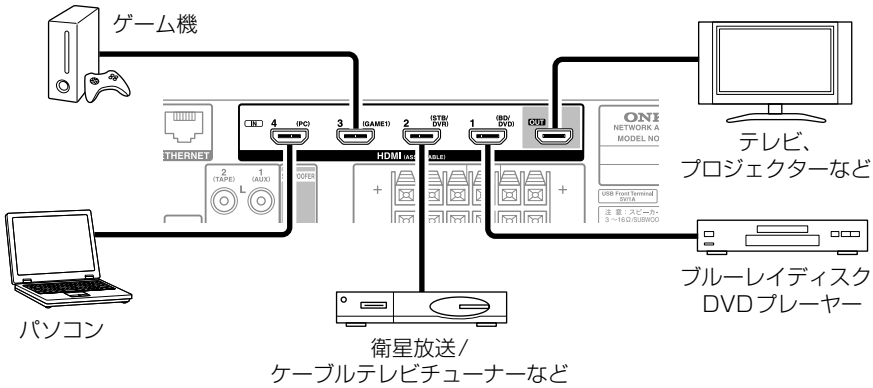
光デジタル入力端子について

NR-365の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

AV機器をHDMI接続する



* お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、NR-365をHDMIケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルでも接続する必要があります。
* HDMI接続した機器の音声をNR-365で聴く場合は、その機器の映像がテレビに映る状態にしておいてください（NR-365が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）。テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、NR-365から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

AV機器は割り当てられた端子に接続してください。お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

✔：割り当ては変更できます（➔ **P.58**）。

端子	AV機器	
IN 1	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
IN 2	衛星放送/ケーブルテレビチューナーなど	✔
IN 3	ゲーム機	✔
IN 4	パソコン	✔
OUT（アウト）	テレビ、プロジェクターなど	

以下の項目もご覧ください。

- 「RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー / レコーダーをご使用になるには」（➔ **P.82**）
- 「HDMIについて」（➔ **P.85**）

ヒント

- HDMI接続したAV機器の音声をテレビのスピーカーで聴く場合は、「**HDMI Through**（スルー）」設定を有効にし（➔ **P.66**）、NR-365をスタンバイ状態にします。

ご注意

- ブルーレイディスク/DVD プレーヤーで、上記の操作をしても音声が出ないときは、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー側でHDMI音声出力の設定をPCMにしてください。

■オーディオリターンチャンネル（ARC）機能

NR-365とテレビをつなぐHDMIケーブルを使用して、テレビの音声信号をNR-365の**HDMI OUT**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。

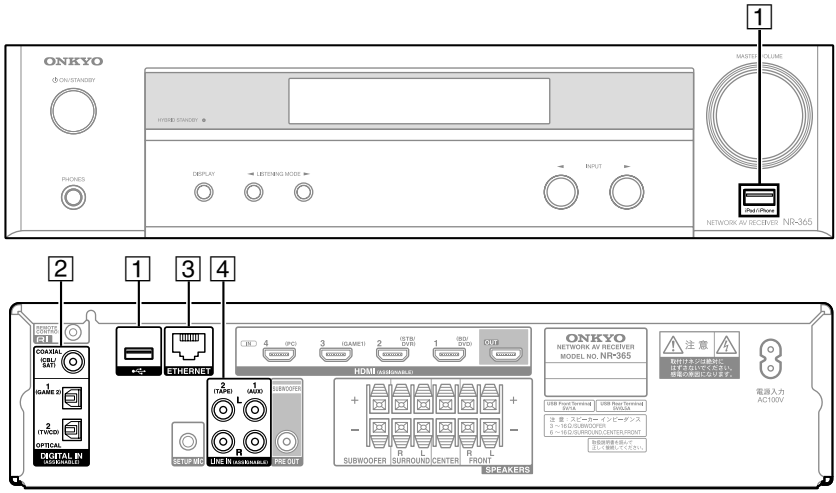
テレビの音声をNR-365に接続したスピーカーで楽しんだり、NR-365に接続したAV機器の映像や音声をテレビで楽しんだりすることが、テレビとNR-365をHDMI接続するだけで可能になります。

ARC機能を使用するには、以下の項目をご覧ください。

- 「**HDMI Ctrl**（コントロール）**(RIHD)**」（➔ **P.65**）
- 「**Audio**（オーディオ） **Return**（リターン） **Ch**（チャンネル）」（➔ **P.67**）

外部機器を接続する

NR-365とテレビをHDMI接続（HDMI OUT）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。NR-365とテレビを接続していない場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。



外部機器は割り当てられた端子に接続してください。お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

✔：割り当ては変更できます（→ P.58）。

No.	端子	外部機器	
1	USB*1*2	iPod/iPhone、MP3プレーヤー、USBデバイス	
2	DIGITAL IN		
	OPTICAL 1（GAME 1）	ゲーム機	✔
	OPTICAL 2（TV/CD）	テレビ、CDプレーヤー	✔
	COAXIAL（CBL/SAT）	衛星放送/ケーブルチューナーなど	✔
3	ETHERNET	ルータ	
4	LINE IN 1（AUX）	CDプレーヤー、レコードプレーヤー*3	✔
	LINE IN 2（TAPE）	カセットテープデッキ、RIドック	✔

ご注意

*1 NR-365の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。NR-365の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。

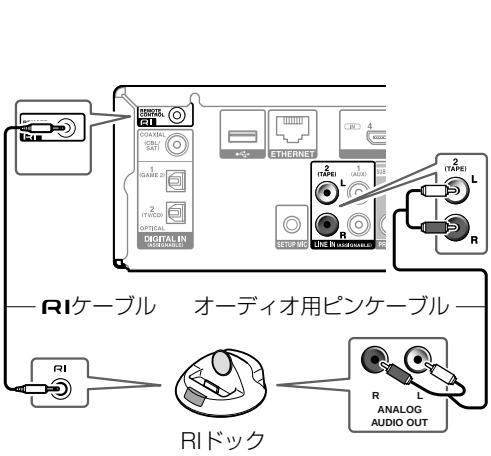
*2 NR-365前面パネルの**USB**端子のみiPod/iPhone、UWF-1およびUBT-1に対応しています。UWF-1、UBT-1は64 kHz以下のコンテンツに使用できます。Dolby TrueHDとDSDには対応していません。

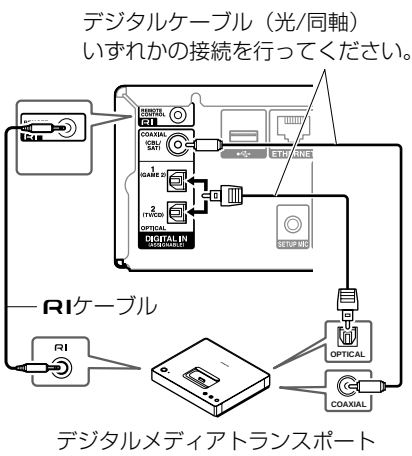
*3 フォノプリアンプ内蔵のレコードプレーヤー（MM）を接続します。内蔵していない場合は、NR-365に対応するフォノプリアンプをご用意ください。可動コイル（MC）カートリッジタイプの場合、NR-365に対応するフォノプリアンプ、MC増幅器またはMC変圧器が必要になります。詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

• 2の接続では、Dolby DigitalやDTSなどを楽しむことができます。

オンキヨー製RIドックなどと連動させる接続

オンキヨー製RIドックやデジタルメディアトランスポートを、**RI**ケーブルで接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本製品には付属していません）。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルやデジタルケーブル（光/同軸）も正しく接続してください。





1 **RIドックが、オーディオ用ピンケーブルで接続されていることを確認してください（接続例の接続4）（→ P.24）**

デジタルメディアトランスポートの場合は、光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルで、接続します。

2 **RIケーブルを接続します（図をご覧ください）**

3 **入力表示を「DOCK（ドック）」に切り換えます（→ P.64）**

RI（リモートインタラクティブ）機能で、以下のシステム機能を利用できます。

■システムオンとオートパワーオン

NR-365がスタンバイモードになっている状態で、**RI**接続されている機器の再生を始めると、自動的にNR-365の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

■ダイレクトチェンジ

RI接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■リモコン操作

付属のリモコンを使って、接続している機器を操作できます。リモコンをNR-365のリモコン受光部に向けて操作します。

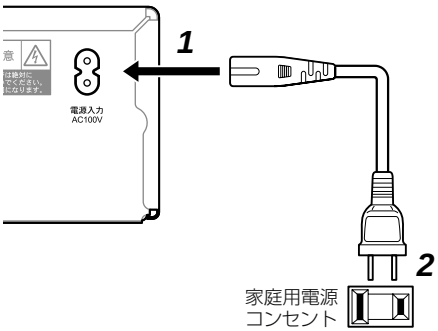
ご注意

- ここで紹介している製品以外にも、**RI**端子のついているオンキヨー製品をお使いいただける場合があります。
  ただし製品によっては、**RI**接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- **RI**ケーブルの接続は、順序の指定はありません。
- **RI**端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、オンキヨーオーディオコールセンターにお問い合わせください。
- デジタルメディアトランスポート（ND-S**）を接続するときは、アナログ音声接続（手順1）は不要です。
- 上記以外にも、アナログ接続が不要な場合があります。各機器に付属している取扱説明書をご覧ください。

電源コードを接続する

1 **付属の電源コードを、NR-365の電源入力AC100V端子に接続します**

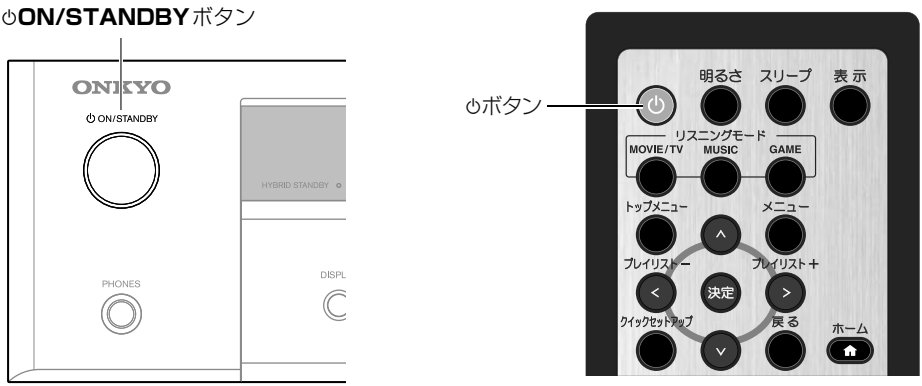
2 **電源コードをコンセントに接続します**



ご注意

- **電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。**
- 付属のNR-365専用電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、NR-365をスタンバイ状態にしてから抜いてください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、**電源入力AC100V**端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- NR-365の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

NR-365の電源を入れる・切る



電源を入れる

1 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押す**
または

リモコンの⏻ボタンを押す

電源を切る

1 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押す**
または

リモコンの⏻ボタンを押す
NR-365がスタンバイ状態になります。
NR-365の電源を入れたときに、大きな音が鳴って驚かないように、必ず音量を下げてから電源を切るようにしてください。

ヒント

- NR-365の設定状況によっては、**HYBRID STANDBY**インジケーターが点灯する場合があります。（➔ **P.57**）
- 電源の設定については、「Auto Standby」をご覧ください（➔ **P.65**）。

■「Update New F/W」というメッセージが表示される

ファームウェアの更新が可能な場合「Update New F/W」というメッセージを表示して通知します。このメッセージが表示されるのは、NR-365をネットワークに接続している場合に限ります（➔ **P.86**）。画面の指示にしたがって更新を行ってください。

∧/∨ボタンで以下のいずれかを選び**決定**ボタンを押す

- Update Now：
  アップデートを開始します。「ファームウェアの更新について」をご覧ください（➔ **P.78**）。
- Remind me Later：
  次回電源を入れた時に再通知します。
- Never Remind me：
  今後、アップデートを通知しません。

ヒント

- この通知を行うか否かは「Update Notice」で設定が可能です（➔ **P.69**）。

再生をする

接続した機器を再生する

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

■ リモコンで操作する

リスニングモードボタン

音量+/−ボタン

入力切換ボタン

1 入力切換ボタンを押して、入力を選ぶ

入力は以下の順番で切り換わります。

LINEボタン： AUX ↔ TAPE

DIGITALボタン：

CBL/SAT → GAME 2
↑ TV/CD ←

USBボタン： USB(F) ↔ USB(R)

HDMIボタン：BD/DVD → STB/DVR
↑ PC ← GAME 1 ←

ヒント

- 各入力端子の割り当ては、変更できます（→ P.58）。

2 選んだ機器の再生を始める

以下の項目もご覧ください。

- 「iPod/iPhoneをUSBで再生する」（→ P.31）
- 「USBストレージ内の音楽ファイルを再生する」（→ P.32）
- 「radiko.jpを聴く」（→ P.33）
- 「vTunerインターネットラジオを聴く」（→ P.33）
- 「他のインターネットラジオを登録する」（→ P.34）
- 「ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する」（→ P.36）
- 「リモート再生する」（→ P.37）
- 「オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する」（→ P.70）

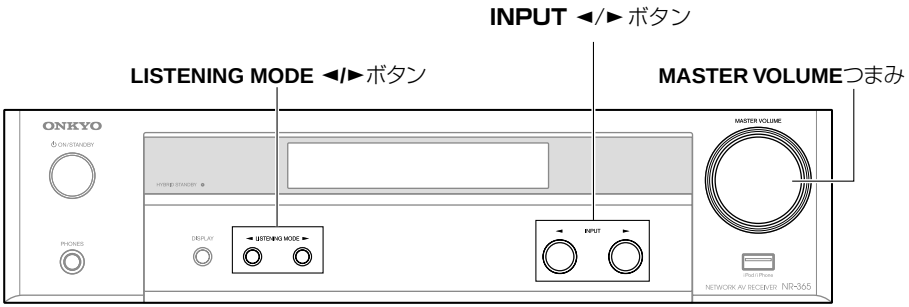
3 音量+/−ボタンで音量を調整する

4 リスニングモードを選んで、楽しむ

以下の項目もご覧ください。

- 「リスニングモードを使う」（→ P.43）

■NR-365前面パネルで操作する



1 INPUT ◄/► ボタンで再生する機器を選ぶ

入力は以下の順番で切り換わります。

BD/DVD ↔ CBL/SAT ↔ STB/DVR
↕ ↕
USB(R) GAME 1
↕ ↕
USB(F) GAME 2
↕ ↕
NET ↔ TV/CD ↔ TAPE ↔ AUX ↔ PC

ヒント

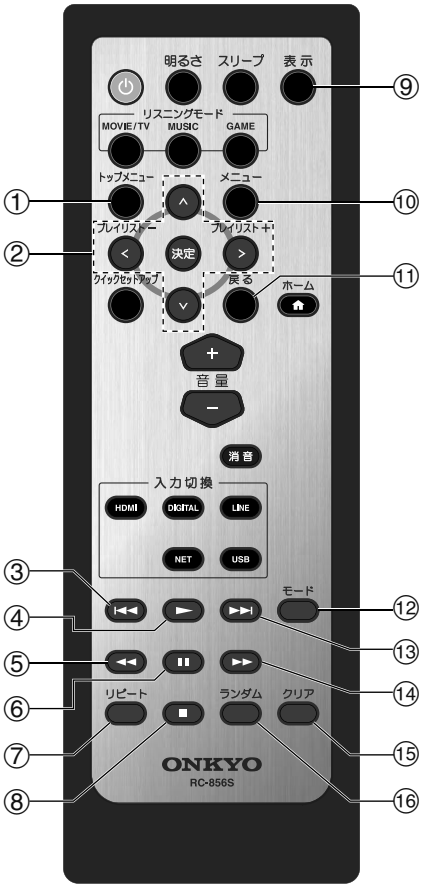
- 各入力端子の割り当ては、変更できます（→ P.58）。

2 選んだ機器の再生を始める

3 MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみで音量を調整する

4 リスニングモードを選んで、楽しむ

USB、ネットワーク内のファイルを操作する



①	**トップメニューボタン** 各メディアやサーバーのトップメニューを表示します。
②	**∧/∨ ボタン、決定ボタン** 項目を選択します。
	</> ボタン ページを移動します。
	プレイリスト −/+ボタン Standard（スタンダード） Mode（モード）（iPod/iPhone）で、プレイリストを選択します。
③	**I◄◄ボタン** 現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、2回押します。
④	**►ボタン** 再生を開始します。
⑤	**◄◄ボタン** 現在の曲を早戻しします。
⑥	**IIボタン** 一時停止します。
⑦	**リピートボタン** リピート再生します。**リピート**ボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。
⑧	**■ボタン** 再生を停止します。
⑨	**表示ボタン** 再生中に曲情報を切り換えます。 リストを表示中に**表示**ボタンを押すと再生表示に戻ります。
⑩	**メニューボタン** 各インターネットラジオサービスのメニューを表示します。
⑪	**戻るボタン** ひとつ前のメニューに戻ります。
⑫	**モードボタン** iPod/iPhoneのExtended（エクステンド） Modeと Standard Modeを切り換えます。
	入力文字を切り換えます。
⑬	**►►Iボタン** 次の曲を再生します。
⑭	**►► ボタン** 現在の曲を早送りします。
⑮	**クリアボタン** 入力したすべての文字を削除します。
⑯	**ランダムボタン** ランダム再生します。

ヒント

- オンキヨー製ドックに接続したiPod/iPhoneの操作については「オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する」をご覧ください（→ P.70）。

ご注意

- 再生するサービスやデバイスによって、動作するボタンが異なります。

表示されるアイコンについて

このセクションでは、メディア再生中に表示部に表示されるアイコンについて説明します。

アイコン	説明
▶	再生
⏸	一時停止
⏭	早送り
⏮	早戻し
🔁	リピート
🔀	シャッフル
👤	アーティスト
💿	アルバム
♪	曲
📁	フォルダ
💿🔀	アルバムシャッフル（iPod/iPhone）
1 🔁	1トラックリピート
📁🔁	フォルダリピート（USB デバイス）
OFF 🔁	リピートオフ
OFF 🔀	シャッフルオフ

iPod/iPhoneをUSBで再生する

NR-365の表示部を見ながら操作してください。

iPod/iPhoneに保存されている音楽ファイルを再生する手順について説明します。
以下のiPod/iPhoneに対応しています。
iPod touch（第一、第二、第三、第四世代）、iPod classic、iPod nano（第二、第三、第四、第五、第六世代）、iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

1 USBボタンをくり返し押して「USB(F)」を選ぶ

ヒント

- ホームメニューで「USB」を選んでも、同様の操作ができます。

2 iPod/iPhone付属のUSBケーブルでNR-365前面パネルのUSB端子に接続する

iPod/iPhoneのコンテンツ情報を読み込み中は、表示部に「Connecting...（コネクティング）」が表示されます。

ヒント

- iPod/iPhone付属のUSBケーブルで接続することを推奨します。

3 モードボタンをくり返し押して、Extended Mode（エクステンド）に切り換える

デバイス内容の一覧が表示されます。

ヒント

- iPod/iPhone本体および、NR-365のリモコンで操作したい場合は、**モード**ボタンをくり返し押してStandard Mode（スタンダード）に切り換えてください。
- ModeはiPod/iPhoneを抜いても保存されているため、Extended Modeで抜いて、再度iPod/iPhoneを差すと次回はExtended Modeで起動します。

4 ∧/∨ ボタンを押してフォルダ選び、決定ボタンを押して開く

5 ∧/∨ ボタンを押してファイルを選び、▶ ボタンまたは決定ボタンを押して再生する

ご注意

- NR-365の表示部に「**Connecting...**」が表示されているときは、NR-365に接続されているiPod/iPhone、USBケーブルを抜かないでください。
- iPod/iPhoneをNR-365の**USB**端子に接続した場合、ヘッドホンからは音声が出力されません。

Extended Modeで操作する

NR-365の表示部にコンテンツ情報が表示され、表示部を見ながら選択および操作ができます。
トップメニューのリスト：
プレイリスト（Playlists）、アーティスト（Artists）、アルバム（Albums）、ジャンル（Genres）、曲（Songs）、作曲者（Composers）、シャッフル（Shuffle Songs）、再生中（Now Playing）

Standard Modeで操作する

NR-365の表示部にコンテンツ情報は表示されず、iPod/iPhone本体および、NR-365のリモコンにて操作が可能です。

USBストレージ内の音楽ファイルを再生する

NR-365の表示部を見ながら操作してください。

以下の手順でUSBストレージ内（USBメモリーなど）の音楽ファイルを再生します。
以下の項目もご覧ください。
•「ネットワーク/USBについて」（➔ P.86）

1 **USBボタンをくり返し押して「USB(F)」または「USB(R)」を選ぶ**

2 **NR-365のUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続する**

3 **決定ボタンを押す**
USBストレージ内のフォルダや音楽ファイルがリスト表示されます。フォルダを開くには ∧/∨ ボタンでフォルダを選び、**決定**ボタンを押してください。

4 **∧/∨ ボタンを押して音楽ファイルを選び、► ボタンまたは決定ボタンを押す**
選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

ご注意

- NR-365の表示部に「**Connecting...**」が表示されているときは、NR-365に接続されているUSBストレージ、USBケーブルを抜かないでください。

radiko.jpを聴く

NR-365をネットワークに接続する必要があります。（→ P.86）NR-365の表示部を見ながら操作してください。

radiko.jpは地上波ラジオ放送をCMも含め、そのまま同時に放送エリアに準じた地域に配信するサイマルサービスです。対応（聴取可能）エリア、対応放送局について詳しくはradiko.jpのWebサイト（http://radiko.jp）をご覧ください。

1 NET（ネット）ボタンを押す

ネットワークサービスメニューが表示されます。

ヒント

- ホームメニューで「Network Service（ネットワーク サービス）」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ∧/∨ ボタンを押して「radiko.jp」を選び、決定ボタンを押す

NR-365が接続されているエリアに応じた放送局リストが表示されます。
radiko.jpサービスが行われていない地域、もしくはサービス停止中の場合、エラーメッセージが表示されます。

3 ∧/∨ ボタンを押して放送局を選び、決定ボタンを押す

再生が開始されます。
楽曲情報を提供している放送局を選択した場合は、楽曲のアーティスト名、楽曲名が表示されます。
楽曲情報が無い放送局の場合は、番組名、出演者名が表示されます。
再生中に、I◄◄/►►I ボタンを押すと、放送局が切り換わります。

以下のメニューを選択するには、放送局の再生中に**メニュー**ボタンを押します。

- Today's Program（トゥデイズ プログラム）：
  当日の番組一覧が表示されます。
- Tomorrow's Program（トゥモローズ）：
  明日の番組一覧が表示されます。
- Program's detail（ディテール）：
  再生している番組の番組詳細が表示されます。
- Topics（トピックス）：
  番組のトピックスが表示されます。放送された楽曲のリストやおすすめ情報など、放送をより楽しむための情報が表示されます。

vTunerインターネットラジオを聴く

NR-365をネットワークに接続する必要があります（→ P.86）。NR-365の表示部を見ながら操作してください。

vTunerインターネットラジオは、世界中のインターネットラジオ局のポータルサイトです。音楽ジャンル別、国別などの区分で各地のラジオ局を検索できます。NR-365ではあらかじめ、vTunerインターネットラジオが登録されています。

1 NETボタンを押す

ネットワークサービスメニューが表示されます。

ヒント

- ホームメニューで「Network Service」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ∧/∨ ボタンを押して「vTuner Internet Radio」を選び、決定ボタンを押す

3 ∧/∨ ボタンを押してプログラムを選び、決定ボタンを押す

再生が開始されます。

ヒント

- リモコンの**メニュー**ボタンを押してから ∧/∨ ボタンで「Stations like this（ステーション ライク ジス）」を選び**決定**ボタンを押せば、再生中の局と似た放送局を表示できます。

■vTunerインターネットラジオの番組をお気に入りに登録する

vTunerインターネットラジオの特定の番組（プログラム）を、再生しやすいようにお気に入りに登録できます。二通りの方法があります。

•「My Favorites」に登録する

NETボタンを押した後に表示されるネットワークサービスメニューの「**My Favorites に登録**」に、お気に入りの番組を登録します。

1. 再生中のラジオ局またはラジオ局を選び、リモコンの**メニュー**ボタンを押す
2. ∧/∨を押して「**My Favorites**に**登録**」を選び、**決定**ボタンを押す
3. ∧/∨/</>を押して「**OK**」を選び、**決定**ボタンを押す

ヒント

- 「**My Favorites**」に登録したラジオ局の名前を変更することができます（→ **P.35**）。

• vTunerインターネットラジオの「ブックマーク」に登録する

vTunerインターネットラジオを選び、**決定**ボタンを押せば、ジャンル/地域などと同じリストに「**ブックマーク**」のフォルダが表示されます。この中にお気に入りのインターネットラジオ番組を登録します。NR-365と同じホームネットワーク（LAN）に接続されているパソコンを使います。

http://onkyo.vtuner.com/ であなたの製品のID#（MACアドレス）を登録すると、このブックマークの中にお気に入りのラジオ番組を登録できます。ID#は「**vTuner Internet Radio**」メニューの一番下の行に表示されています。またMACアドレスは、セットアップ画面から「**Network Setup**」を選ぶと表示されます（→ **P.68**）。

他のインターネットラジオを登録する

NR-365をネットワークに接続する必要があります（→ P.86）。NR-365の表示部を見ながら操作してください。

NR-365は、PLS形式、M3U形式、およびPodcast（RSS）形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。

radiko.jpやvTunerインターネットラジオ以外のインターネットラジオ番組を聴くには、以下の手順で番組をネットワークサービスメニューの「**My Favorites**」に登録します。

ご注意

- サービスプロバイダーがサービスを終了していると、本機でそのネットワークサービスやコンテンツを利用できなくなる場合があります。

1 **セットアップ画面から「Network Setup」を選んでIPアドレスを表示させる（→ P.68）**

IPアドレスをメモに控えます。

2 **パソコンの電源を入れ、Internet Explorer®などのインターネットブラウザを開く**

3 **インターネットブラウザのURL欄にNR-365のIPアドレスを入力する**

Internet Explorerをご利用の場合は「ファイル」から「開く」を選び、IPアドレスを入力する方法もあります。

インターネットブラウザにNR-365の情報が表示されます（WEB Setup Menu）。

4 **「My Favorites」タブをクリックして、インターネットラジオ局の名前とURLを入力する**

5 「Save」をクリックしてインターネットラジオ局を登録する

登録したインターネットラジオ局は「**My Favorites**」に追加されます。再生するにはリモコンの**NET**ボタンを押して、ネットワークサービスメニューの「**My Favorites**」を選んで**決定**ボタンを押してください。インターネットラジオ局が表示されますので、登録したインターネットラジオ局を選んで**決定**ボタンを押します。

ヒント

- NR-365の「**My Favorites**」メニューから新しいラジオ局を追加したい場合は、リスト内の「- - - -」を選び**メニュー**ボタンを押してから**決定**ボタンで「**新しいステーションを追加**」を選びます。再度**決定**ボタンを押すと、入力可能な文字列が表示されるので、名前とURLを順に入力します。
- 登録したラジオ局を削除する場合は、再生中のラジオ局またはラジオ局を選び**メニュー**ボタンを押してから ∧/∨ ボタンで「**My Favoritesから削除**」を選び **決定**ボタンを押します。「**削除してもよろしいですか**」が表示されるので ∧/∨ ボタンで「**OK**」を選び**決定**ボタンを押します。またWEB Setup Menuからでも削除できます。
- 登録したラジオ局の情報を変更する場合は、ラジオ局を選び**メニュー**ボタンを押してから ∧/∨ ボタンで「**ステーション情報を変更**」を選び**決定**ボタンを押します。入力可能な文字列が表示されるので、名前とURLを順に入力します。
- インターネットラジオ局は40局まで登録できます。

■ 文字の入力について

登録したインターネットラジオ局の名前、URLの情報をアルファベットや数字、記号で変更することができます。

表示部に文字列が表示されたら、以下の手順で文字を入力します。

1 ∧/∨/</> ボタンを使って文字・記号を選び、決定ボタンを押す

この操作をくり返して、文字列を入力します。

2 入力が終わったら、∧/∨/</> ボタンを使って「OK」を選び、決定ボタンを押す

この操作を行わないと入力した文字列は保存されません。

- 入力できる文字は以下のとおりです。

1

a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	k	l	m
n	o	p	q	r	s	t	u	v	w	x	y	z
1	2	3	4	5	6	7	8	9	0	–	^	\
,	.	/	;	:	@	[	]	S	p	a	c	e
S	h	i	f	t	<-	->		B	S	O	K	

2

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
N	O	P	Q	R	S	T	U	V	W	X	Y	Z
!	"	#	$	%	&	'	(	)	_	=	~	/
<	>	?	+	*	`	{	}	S	p	a	c	e
S	h	i	f	t	<-	->		B	S	O	K	

Space（スペース）：
1文字分空白のスペースを入力します。

Shift（シフト）*1：
表示する文字が切り換わります。

<-（左）/ ->（右）：
名前入力エリア内でカーソルを移動するときに選びます。

BS（Back Space（バック スペース））*2：
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

OK：
入力が完了したときに押します。

ヒント

*1 **モード**ボタンを押すことでも切り換わります。

*2 **クリア**ボタンを押すと、入力したすべての文字を削除できます。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

NR-365は以下のネットワークサーバーに対応しています。

- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- Windows Media Connect 2.0
- DLNA準拠サーバー

詳細は「サーバーについて」をご覧ください（➔ P.87）。

NR-365をネットワークに接続する必要があります（➔ P.86）。NR-365の表示部を見ながら操作してください。

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。

1 **パソコンまたはネットワークサーバーを起動する**

2 **NETボタンを押す**

ネットワークサービスメニューが表示されます。

ヒント

- ホームメニューで「Network Service」を選んでも、同様の操作ができます。

3 **∧/∨ ボタンを押して「DLNA」を選び、決定ボタンを押す**

4 **∧/∨ ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、決定ボタンを押す**

ネットワークサーバーの項目がリスト表示されます。

ご注意

- サーチ機能に対応していないネットワークサーバーでは、サーチ機能は働きません。
- NR-365はネットワークサーバーにある写真や動画にアクセスすることはできません。
- ネットワークサーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。ネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

5 **∧/∨ ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、決定ボタンまたは ► ボタンを押す**

ご注意

- メディアサーバーによっては、早送り/早戻り/一時停止の操作が機能しない場合があります。
- 「**アイテムがありません。**」というメッセージが出る場合は、サーバーから情報が取得できなかったことを意味しています。この場合、サーバー、ネットワーク、接続を確認してください。

Windows Media® Player 11

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。

ここでは、Windows Media® Player 11を例として説明します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11を開く**

2 **「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選ぶ**

ダイアログが開きます。

3 **「メディアを共有する」チェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックする**

対応機器が表示されます。

4 **NR-365を選んで、「許可」をクリックする**

NR-365のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 **「OK」をクリックして、ダイアログボックスを閉じる**

これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

リモート再生する

NR-365をネットワークに接続する必要があります（→ P.86）。NR-365の表示部を見ながら操作してください。

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA 準拠のコントローラー機器やPC を操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルをNR-365で再生する機能です。

Windows Media Player 12の設定をする

ネットワークサーバーやPCに保存された音楽ファイルをNR-365で再生するために Windows Media Player 12を設定します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

2 **「ストリーム」メニューを開き、「メディア ストリーミングを有効にする」を選ぶ**

ダイアログが開きます。

ヒント

- メディアストリーミングがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューを開き「その他のストリーミングオプション」をクリックすると、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので手順4へ進んでください。

3 **「メディア ストリーミングを有効にする」をクリックする**

ネットワーク内の再生機器一覧が表示されます。

4 **「メディア ストリーミング オプション」でNR-365を選び、「許可」になっていることを確認する**

5 **「OK」をクリックして、ダイアログを閉じる**

これでWindows Media Player 12を使ってNR-365でリモート再生をする準備が整いました。

ヒント

- 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることも確認してください。

リモート再生する

1 **NR-365の電源を入れる**

2 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

あらかじめ、Windows Media Player 12の設定をしておく必要があります。

3 **Windows Media Player 12で再生したい音楽ファイルを選び、右クリックする**

右クリックメニューが表示されます。

ヒント

- 別のネットワークサーバー内の音楽ファイルをリモート再生するには、「その他のライブラリ」からネットワークサーバーを開き、再生したい音楽ファイルを選びます。

4 **「リモート再生」からNR-365を選ぶ**

Windows Media Player 12の「リモート再生」ウィンドウが開き、NR-365で再生が開始されます。
リモート再生中の操作は、お使いのWindows 7の「リモート再生」ウィンドウで行います。

5 **音量を調整する**

「リモート再生」ウィンドウの音量バーを操作して、NR-365の音量を調整できます。標準の最大音量は64です。この設定を変更したい場合はWebセットアップ（WEB Setup Menu）から最大音量値（DMR最大ボリューム）を入力します。「他のインターネットラジオを登録する」に記載しているWEB Setup Menuの項目をご覧ください。（→ **P.34**）
リモート再生ウィンドウとNR-365の音量値は一致しない場合があります。
NR-365で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。

ご注意

- 以下のいずれかの場合、NR-365はリモート再生できません。
  - ネットワークサービスを使っている
  - USBデバイスまたはiPod/iPhoneの音楽ファイルを再生している

共有フォルダ内の曲を再生する

NR-365をネットワークに接続する必要があります（→ P.86）。NR-365の表示部を見ながら操作してください。

以下の手順で、NR-365と同じホームネットワーク（LAN）に接続されたパソコンまたは、NAS(Network Attached Storage)の共有フォルダ内の曲を再生します。

Windows 7の設定をする

■共有オプションの設定をする

1 **「コントロールパネル」の「ホームグループと共有に関するオプションの選択」を選ぶ**

ヒント

- メニューが表示されない場合、「表示方法」が「カテゴリ」になってるか確認してください。

2 **「共有の詳細設定の変更」を選ぶ**

3 **「ホームまたは社内」で以下のチェックボックスにチェックが入っているか確認する**

「ネットワーク探索を有効にする」/「ファイルとプリンターの共有を有効にする」/「共有を有効にしてネットワークアクセスがあるフォルダ内のファイルを読み書きできるようにする」/「パスワード保護の共有を無効にする」

4 **「変更の保存」を選び、確認画面で「OK」をクリックする**

■共有フォルダの作成をする

1 **共有したいフォルダを選び、右クリックする**

2 **「プロパティ」を選ぶ**

3 **「共有」タブから「詳細な共有」を選ぶ**

4 **「このフォルダを共有する」にチェックを入れ、「OK」をクリックする**

5 **「ネットワークのファイルとフォルダの共有」から「共有」を選ぶ**

6 **プルダウンメニューから「Everyone」を選び、「共有」をクリックする**

ヒント

- この設定では誰でもフォルダにアクセスが出来る状態になります。フォルダにユーザーとパスワードを設定する場合は、「共有」タブの 「詳細な共有」にある「アクセス許可」を設定してください。
- 「ワークグループ」が設定されているかを確認してください。

ご注意

- NAS(Network Attached Storage)をお使いの場合は、お手持ちのNASの取扱説明書をご確認ください。

共有フォルダ内の曲を再生する

Home Media（ホーム メディア）を楽しむには、あらかじめパソコン内で共有フォルダを作成する必要があります。

1 **NET（ネット）ボタンを押す**

ネットワークサービスメニューが表示されます。

ヒント

- ホームメニューで「Network Service」を選んでも、同様の操作ができます。

2 **∧/∨ ボタンを押して「Home Media」を選び、決定ボタンを押す**

3 **∧/∨ ボタンを押して、サーバーを選び、決定ボタンを押す**

ヒント

- お使いのパソコンのサーバー名は、パソコンのプロパティから確認できます。

4 **∧/∨ ボタンを押して、共有フォルダを選び、決定ボタンを押す**

5 **ユーザー名とパスワードを要求されたら、必要なアカウント情報を入力する**

ヒント

- 一度入力されたアカウント情報は保存され、次回からの入力が不要になります。
- アカウント情報については、共有フォルダの作成時に設定したアカウント情報を使用してください。

6 **∧/∨ ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、決定ボタンまたは ► ボタンを押す**

再生が開始されます。

基本機能を使う

自動スピーカー設定を使う

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。

また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。

Audyssey（オーディシー） 2EQ®機能を使用することで、

Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ®機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます（➔ P.62）。

この機能を使用する前に、使用するすべてのスピーカーを接続してください。

自動スピーカー設定には

「**Audyssey Quick（クイック） Start（スタート）**」と

「**Audyssey 2EQ Full（フル） Calibration（キャリブレーション）**」の2種類の測定方法があります。

- 「**Audyssey Quick Start**」は1ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。
- 「**Audyssey 2EQ Full Calibration**」は最大3ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。

測定箇所が多いほど、よりよい視聴環境を構築できます。

最適な視聴環境を構築するためには、3ヶ所での測定をお勧めします。

設定に必要な時間は1ヶ所で約2分、3ケ所で約10分かかります。

スピーカーの数によって時間は変わります。

測定手順

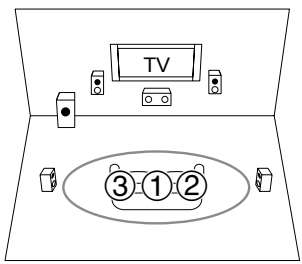
ホームシアターで、すべての視聴者が楽しめる視聴環境を構築するために、視聴エリア内で最大3ヶ所の測定を行います。三脚台を使用して視聴者が座った状態の耳の高さに測定用マイクを設置し、マイクの先端が天井を向くように固定してください。測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定できません。

① **最初に測定する位置**
視聴エリアの中心、または1人で視聴するときに座る位置です。Audyssey 2EQでは、この位置の測定値に基づいて、スピーカーの距離、音量、最適なクロスオーバー値を計算します。

② **2番目に測定する位置**
視聴エリアの右側にあたる位置です。

③ **3番目に測定する位置**
視聴エリアの左側にあたる位置です。

①と②、①と③の間は、1m以上あけるようにしてください。



◯：視聴エリア　①～③：マイク測定位置

ご注意

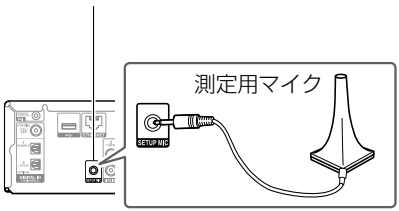
- 測定中は、部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音や無線周波妨害（RFI）があると、部屋の測定が中断される場合があります。窓を閉めて、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。携帯電話は（使用中でなくても）電源を切るか、すべてのオーディオ機器から離れた場所に置いてください。
- 自動スピーカー設定が実行されると、各スピーカーから再生されるテスト音をマイクが拾います。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1 **NR-365の電源と、接続しているテレビの電源を入れる**

テレビの入力を、NR-365に接続した入力へ切り換えてください。

2 **付属の測定用マイクを、測定位置①に設置してから、マイクのプラグをNR-365の(セットアップ)SETUP (マイク)MIC端子に接続する**

SETUP MIC端子



ご注意

- NR-365とテレビをHDMI接続（**HDMI (アウト)OUT**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

3 **∧/∨ ボタンを押して「(オーディシー)Audyssey (クイック)Quick (スタート)Start」または「(フル)Full (キャリブレーション)Calibration」を選び、決定ボタンを押す**

4 **決定ボタンを押す**

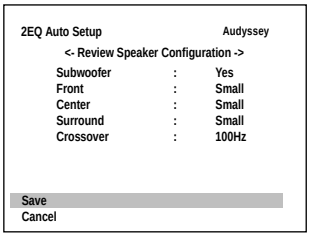
自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。
完了するまで数分かかります。
自動スピーカー設定中は、話したり、スピーカーとマイクの間に立ったりしないでください。
測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。
「Audyssey Quick Start」を選んでいる場合、手順7に進んでください。

5 **マイクを次の測定位置に設置し、決定ボタンを押す**

測定が再開されます。完了するまで数分かかります。

6 **画面にしたがって、手順5をくり返す**

7 **∧/∨ ボタンを押して項目を選び、決定ボタンを押す**



以下の選択項目があります。

- (セーブ)Save：
  計算結果を保存して終了します。
- (キャンセル)Cancel：
  結果をキャンセルして終了します。

ヒント

- 詳細、距離、音量レベルの測定結果は、</> ボタンで表示切り換えできます。

8 **∧/∨ ボタンを押して項目を選び、</> ボタンを押して設定を変更する**

自動スピーカー設定の測定結果を保存すると、「Audyssey」（➔ P.62）、「(ダイナミック)Dynamic EQ」（➔ P.62）、「Dynamic (ボリューム)Volume」（➔ P.63）設定がメニューに表示されます。

ご注意

- 測定方法で「Audyssey Quick Start」を選んだ場合、「Audyssey」は選択できません。
- これらの設定は、すべての入力セレクタに適用されます。

9 **決定ボタンを押す**

10 **マイクを取り外す**

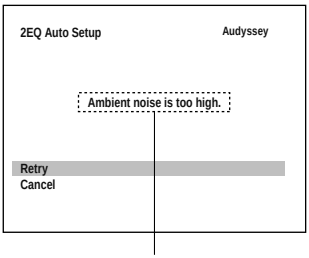
ご注意

- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中は、スピーカーを接続したり、外したりしないでください。
- ミューティング機能が設定されていると、解除されます。
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合は、部屋内の音域特性が変化しています。自動スピーカー設定をやり直してください。

• スピーカーを増設した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。

エラーメッセージ

自動スピーカー設定中、以下のいずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。



エラーメッセージ

以下の選択項目があります。

▸ **Retry**：
再度測定します。
（測定していたポイントから再開します）

▸ **Cancel**：
結果をキャンセルして終了します。

• **Ambient noise is too high.**
測定環境の雑音が大きすぎて、測定できません。雑音の原因を取り除いてください。

• **Speaker matching Error!**
検出されたスピーカーの数が、最初の測定時と異なります。スピーカーの接続を確認してください。

• **Writing Error!**
測定結果の保存に失敗しました。
2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、NR-365が故障している可能性があります。
お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。

• **Speaker Detect Error**
このメッセージは、スピーカーが検出されないときに表示されます。「**No**」は、スピーカーが検出されなかったことを表しています。

ヒント

• 正しいスピーカー構成については、「スピーカーの配置」をご覧ください（➔ **P.19**）。

スピーカーの設定を手動で変更する

自動スピーカー設定で設定した項目を、手動で変更できます。
以下の項目もご覧ください。

• 「スピーカー詳細設定 （2.Sp Config)」（➔ **P.59**）
• 「スピーカー距離 （3.Sp Distance)」（➔ **P.60**）
• 「スピーカー音量レベル（4.Level Cal)」（➔ **P.60**）

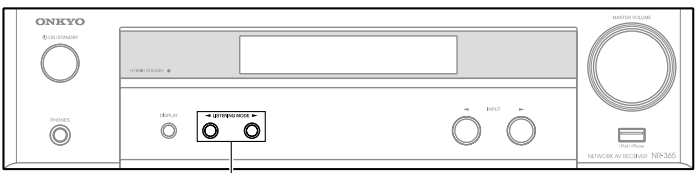
サブウーファーを接続している場合

サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。
「**Review Speaker Configuration**」画面の「**Subwoofer**」が「**No**」と表示される場合は、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。音量を大きく設定し過ぎて音が歪む場合は、検出に関する問題が発生する可能性があります。適切な音量に設定してください。
カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、OffあるいはDIRECTの状態にしてご使用ください。カットオフ周波数をOffにできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。

リスニングモードを選ぶ

リスニングモードの詳細については、「リスニングモードについて」をご覧ください（➔ P.44）。

■ リスニングモードのボタン



MOVIE/TV（ムービー）ボタン

映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSIC（ミュージック）ボタン

音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAME（ゲーム）ボタン

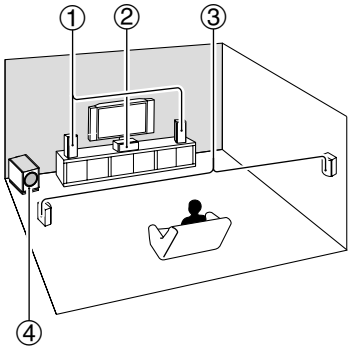
ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、Dolby Digital（ドルビー デジタル）やDTSリスニングモードは選べません。
- 選択できるリスニングモードは、入力信号のフォーマットによって決まります。入力信号のフォーマットを確認する方法については、「表示を確認する」をご覧ください（➔ P.51）。
- ヘッドホン接続時は、Mono（モノ）、Direct（ダイレクト）またはStereo（ステレオ）の各リスニングモードが選択できます。

リスニングモードについて

さまざまなリスニングモードを使うと、高度な再現性とすばらしいサラウンド効果で、あなたの部屋が劇場やコンサートホールに生まれ変わります。

■このセクションのみかた



① フロントスピーカー
② センタースピーカー
③ サラウンドスピーカー
④ サブウーファー

入力信号のチャンネル数について

ここでは、代表的な入力信号について説明しています。

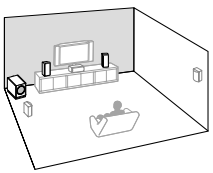
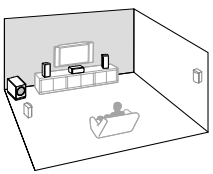
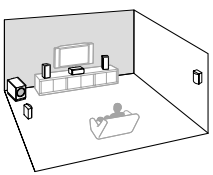
モノラル	モノラル音声です。AACフォーマットなどにおける多重音声（Multiplex（マルチプレックス））も含みます。
ステレオ	ステレオ音声です。2つの独立した音声信号チャンネルが、左右フロントスピーカーから再生されます。音声フォーマットは、PCM、AAC、Dolby Digital（ドルビー　デジタル）などがあります。
5.1ch	5.1チャンネルのサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、5つのメインサウンドチャンネルと、6番目のサブウーファーチャンネル（0.1チャンネルと呼ばれます）を使います。音声フォーマットは、AAC、Dolby Digital、DTSなどがあります。
7.1ch *1	7.1チャンネルのサラウンドサウンドです。5.1チャンネルサウンドを音響的にさらに改良したもので、2つのスピーカーを追加することによって、サラウンド感と音場の正確性を向上しています。音声フォーマットは、Dolby Digital、DTSなどがあります。

ご注意

*1 NR-365では7.1チャンネル音声を5.1チャンネル音声で出力します。

スピーカーの配置

以下の図は、各チャンネル構成で、どのスピーカーが有効になるかを示した代表的なスピーカーの配置例です。スピーカーの設定については「スピーカー詳細設定 （2.Sp Config)」をご覧ください（➔ P.59）。

2.1	
3.1	
5.1	

■ オンキヨー独自のDSPリスニングモード

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
オーケストラ Orchestra *Orchestra*	クラシックやオペラに適したモードです。音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調する効果があります。大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1*1 3.1*1 5.1
アンプラグド Unplugged *Unplugged*	アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージを作ります。		
スタジオ ミックス Studio-Mix *Studio Mix*	ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。		
ロジック TV Logic *TV Logic*	放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。		
ステージ Stage*1 *Stage*	「演劇/ドラマ」系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
アクション Action*1 *Action*	「アニメ/特撮」系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
ミュージック Music*1 *Music*	音楽系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
スポーツ Sports*1 *Sports*	スポーツ系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
ゲーム Game-RPG *Game RPG*	RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Action *Game Action*	アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Game-Rock（ロック） *Game Rock*	ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1*1 3.1*1 5.1
Game-Sports *Game Sports*	スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
All Ch Stereo（オール チャンネル ステレオ） *All Ch Stereo*	BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。		3.1 5.1
Full Mono（フル モノ） *Full Mono*	すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。		
T-D (Theater-Dimensional)（シアター ディメンショナル） *T D*	2つまたは3つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているような、バーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を、制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。		2.1 3.1 5.1

■ リスニングモード

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Direct（ダイレクト） *Direct*	このモードに合わせておくと、入力された信号がそのまま再生されます。たとえば音楽CDの2chの信号が入力されればステレオで再生、地上波デジタル放送のAACの5.1ch信号が入力されれば5.1chで（2ch信号入力ではステレオで）再生、ブルーレイディスクやDVDのDolby（ドルビー）Digital（デジタル）信号が入力されればそのチャンネル数に応じたDolby Digital音場が再生される便利なモードです。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1
Stereo（ステレオ） *Stereo*	左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されます。		
Mono（モノ） *Mono*	モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを、左右のチャンネルで独立して再生するモードです。DVDなどに記録された、音声多重のサウンドトラックに適しています。		
Multichannel（マルチチャンネル） *Multich*	マルチチャンネルPCMソース再生時に使用できるモードです。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
DSD*2 DSD	DSDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1
ドルビー デジタル Dolby Digital Dolby D	Dolby Digitalソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1
プラス Dolby Digital Plus*3 Dolby D +	Dolby Digital Plusソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
トゥルー Dolby TrueHD Dolby TrueHD	Dolby TrueHDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。		
DTS DTS	DTSソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1
ハイ DTS-HD High レゾリューション Resolution Audio DTS HD HR	DTS-HD High Resolution Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1
マスター DTS-HD Master Audio DTS HD MSTR	DTS-HD Master Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。		
エクスプレス DTS Express DTS Express	DTS Expressソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1
DTS 96/24*4 DTS 96/24	DTS 96/24ソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。96kHzのサンプリングレートと、24ビットの解像度を使った高解像度DTSとして、きめ細やかな再現性を実現します。DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどにご使用ください。		
AAC AAC	AACソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。MPEG-2 AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。 地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。		

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Dolby Pro Logic II	Dolby Pro Logic IIでは、すべての2チャンネルソースを5.1チャンネルで再生します。明瞭なサウンドはそのままに、かつてないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。	ステレオ	3.1 5.1
PLⅡ Movie PLⅡ Music PLⅡ Game	• **Dolby PLII Movie** Dolby Surround（Pro Logic）の映画（テレビ番組、DVD、VHSなど）を鑑賞するときに使います。 • **Dolby PLII Music** Dolby Surround（Pro Logic）の音楽ソース（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）を聴くときに使います。 • **Dolby PLII Game** テレビゲーム、特にDolby Pro Logic IIのロゴのついたゲームディスクを楽しむときに使います。		
DTS Neo:6	2チャンネルソースを5.1チャンネルで再生します。2チャンネルで収録されたソースを、マルチチャンネルサラウンド再生するモードです。すべてのチャンネルに広い周波数帯域が確保され、チャンネル間の独立性も優れています。 映画に最適なCinemaモードと、音楽再生に最適なMusicモードが選択できます。		
Neo:6 Cinema Neo:6 Music	• **DTS Neo:6 Cinema** 2チャンネルの映画（テレビ、DVD、VHSなど）に適しています。 • **DTS Neo:6 Music** 2チャンネルの音楽（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）に適しています。		

ご注意

*1 「**Genre Control**」設定を「**Auto**」に設定していないと選択できません。(➔ P.67)

*2 NR-365は**HDMI**入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCMに設定したほうが、よい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定をPCM出力にしてください。

*3 ブルーレイディスクの場合は、3.1チャンネルまたは5.1チャネルのスピーカー構成でDolby Digitalになります。

*4 NR-365の設定によってはDTSになります。

• 入力信号によっては選べないことがあります。

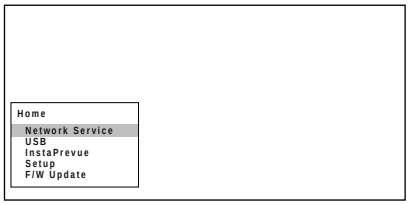
ホームメニューを使う

ホームメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。

NR-365とテレビをHDMI接続（HDMI OUT）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

1 ホームボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。



2 ∧/∨ ボタンを押して目的の項目を選び、決定ボタンを押す

ホームボタンを押すとメニューが閉じます。

■Network Service（ネットワーク サービス）

NR-365をネットワークに接続する必要があります（➔ P.86）。

▸この項目は、各種のインターネットラジオサービスやDLNAを利用するときに選択します（➔ P.33）。

本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

決定ボタンを押してネットワークサービスメニューを表示します。

∧/∨ ボタンでインターネットラジオサービスを選び**決定**ボタンを押すと、選んだインターネットラジオサービスに切り換わります。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生したいときは ∧/∨ ボタンで「**DLNA**」を選び**決定**ボタンを押します。

■USB

▸この項目は、iPodなどのデジタルオーディオプレーヤーやUSBデバイスをNR-365の**USB**端子に接続して再生するときに選択します（➔ P.31、32）。

本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

決定ボタンを押して、前回選択していた「**USB(F)**」または「**USB(R)**」に切り換えます。

ヒント

- 現在USBセレクタを選択している場合は、「**USB(F)**」と「**USB(R)**」が切り換わります。

決定ボタンを押して接続したデバイスのコンテンツを表示した後に ∧/∨ ボタンで希望するフォルダや曲を選びます。**決定**ボタンをもう一度押すと、選んだ曲を再生します。

ヒント

- NR-365前面パネルの**USB**端子のみiPod/iPhoneに対応しています。

■ InstaPrevue（インスタプレビュー）

▸この項目は、HDMI入力端子からの映像/音声をプレビュー表示したいときに選択します。各入力映像をひとつの画面にまとめてプレビュー表示できるので、複数の機器をHDMI接続している場合でも、簡単に入力を切り換えることができます。

決定ボタンを押して、親画面（現在の入力映像）と子画面（その他の入力映像）を表示します。∧/∨ または <>/> ボタンを使用して子画面を選び、**決定**ボタンを押すとその入力に切り換わります。

ヒント

- 入力映像がない場合は、黒の子画面が表示されます。
- 子画面の表示数と表示場所はお好みで設定できます（→ P.67）。

ご注意

- 選択中の入力ソースからの信号がない場合、この項目は選択できません。
- 映像の信号方式によっては、子画面に正しく表示されないことがあります。

■ Setup（セットアップ）

▸この項目は、セットアップメニューで各種の設定をするときに選択します。

決定ボタンを押して、セットアップメニューを開きます（→ P.56）。

ヒント

- よく使用する項目は、クイックセットアップメニューからも設定することができます（→ P.52）。

■ F/W Update（ファームウエア アップデート）

▸この項目は、ファームウェアの更新をするときに選択します。本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

決定ボタンを押して、ファームウェアの更新手順に進みます（→ P.78）。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。

1 スリープボタンをくり返し押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

スリープタイマー設定中は**SLEEP**表示が点灯します。残り時間を約5秒間表示したあと、元の表示に戻ります。

ヒント

- スリープタイマーを解除するには、**SLEEP**表示が消えるまで、くり返し**スリープ**ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから、再度電源を入れます。
- **スリープ**ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。残り時間が10分以下のときにもう一度**スリープ**ボタンを押した場合、スリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを調節すると同時に**MASTER VOLUME**（マスター ボリューム）インジケーターのオンとオフを切り換えます。

1 明るさボタンをくり返し押して明るさを選ぶ

- 通常+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが点灯
- やや暗い+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが消灯
- 暗い+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが消灯

表示を確認する

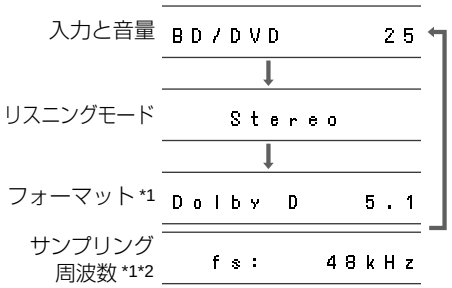
入力信号の様々な情報を表示することができます。

1 表示ボタンをくり返し押す

ヒント

- 本体の**DISPLAY**ボタンでも操作できます。

以下の情報を表示できます。



*1 入力信号がデジタルの場合は、フォーマットが表示されます。情報は約3秒間表示されたあと、元の表示に戻ります。

*2 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）の場合は、表示されません。音声の数が表示されます。

一時的に音量を小さくする

出力を一時的に小さくできます。

1 消音ボタンを押す

MUTING表示が点滅します。

ヒント

- 解除するには、**消音**ボタンをもう一度押すか音量調整をします。
- NR-365がスタンバイ状態になった場合にも、解除されます。

ヘッドホンで聴く

1 標準プラグ（6.3 mm）のステレオヘッドホンを、**PHONES**（フォーンズ）端子に接続する

ご注意

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- Stereo（ステレオ）、Mono（モノ）またはDirect（ダイレクト）以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると、自動的にStereoリスニングモードになります。
- iPod/iPhoneをNR-365の**USB**端子に接続した場合、ヘッドホンからは音声が出力されません。

設定をする

OSDセットアップメニュー

接続したテレビでNR-365の各種設定を変更するには、以下の二通りの方法があります：
Quick（クイック） Setup（セットアップ）メニュー、Setupメニュー。

■Quick Setupメニュー

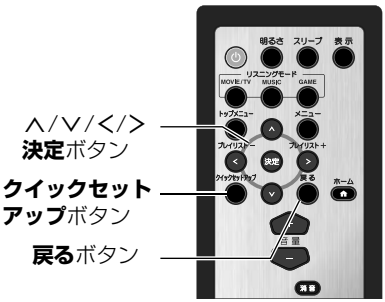
Quick Setupメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。このメニューを利用して、設定を変更したり、現在の情報を確認したりできます。

■Setupメニュー（ホーム）

Setupメニュー（**ホーム**）は、NR-365の各種設定を変更できる、便利なメニューです。設定項目は、9カテゴリーに分けられています。

NR-365とテレビをHDMI接続（HDMI OUT（アウト））すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

Quick Setupメニューを使う



1 **クイックセットアップボタンを押す**
接続したテレビ画面にQuick Setupメニューが表示されます。

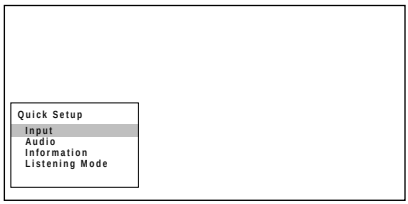
2 **∧/∨ ボタンを押して目的の項目を選び、決定ボタンを押す**

クイックセットアップボタンを押すと、設定を終了します。**戻る**ボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

Quick Setupメニューのみかた

①——■Music Optimizer
②——▸Off
　　└▸On

① 設定項目
② 設定オプション（下線付きで表示されている設定オプションは、お買い上げ時の設定です。）



■Input（インプット）

▸入力ソースを選択したり、以下の情報を確認することができます：入力セレクタ名、入力割り当て設定、ARC機能設定。
∧/∨ ボタンを押して、入力ソースの情報を確認しながら入力ソースを選択できます。**決定**ボタンを押すと、選択されている入力ソースに切り換わります。

■Audio（オーディオ）(→ P.54)

▸変更できる項目は、「Bass（バス）」、「Treble（トレブル）」、「Subwoofer Level（サブウーファー レベル）」、「Center（センター） Level」、「Audyssey（オーディシー）」、「Dynamic EQ（ダイナミック）」、「Dynamic Volume（ボリューム）」、「Late Night（レイト ナイト）」、「Music Optimizer（ミュージック オプティマイザー）」、「Cinema Filter（シネマ フィルター）」です。

■Information（インフォメーション）*1

▸情報を表示できる項目は、「Input」、「Output（アウトプット）」です。

■Listening Mode（リスニング モード）*2

▸「MOVIE/TV（ムービー テレビ）」、「MUSIC（ミュージック）」、「GAME（ゲーム）」のカテゴリーに分類されたリスニングモードを選ぶことができます。
∧/∨ ボタンを使ってカテゴリーを選び、</> ボタンでリスニングモードを選びます。**決定**ボタンを押すと、選んだリスニングモードに切り換わります。

ご注意

*1 入力ソースとリスニングモードによっては、表示された出力チャンネルの一部しか音声が出ないことがあります。

*2 • 以下の場合は設定できません：
- 「Audio TV Out（オーディオ アウト）」設定を「On」にしている（→ P.66）。
- 「HDMI Ctrl (RIHD)（コントロール）」を「On」にして（→ P.65）、テレビのスピーカーで聴いている。

音声設定を使う

Quick Setup（クイック セットアップ）メニューからさまざまな音声設定を変更できます。（➔ P.52）

ご注意
- 以下の場合は設定できません：
  - 「Audio TV Out（オーディオ アウト）」設定を「On」にしている（➔ P.66）。
  - 「HDMI Ctrl（コントロール） (RIHD)」を「On」にして（➔ P.65）、テレビのスピーカーで聴いている。

トーンコントロール設定

■ Bass（バス）

▸ −10 dB～0 dB～+10 dB：
フロントスピーカーの低音の音質を、2dBずつ調整できます。

■ Treble（トレブル）

▸ −10 dB～0 dB～+10 dB：
フロントスピーカーの高音の音質を、2dBずつ調整できます。

「Direct（ダイレクト）」以外のリスニングモード時に、左右フロントスピーカーの音質を調整することができます。

スピーカーの音量

■ Subwoofer（サブウーファー） Level（レベル）

▸ 1dB単位で、−15 dB～0 dB～+12 dB

■ Center（センター） Level

▸ 1dB単位で、−12 dB～0 dB～+12 dB

音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、NR-365をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。
設定を記憶するには、「スピーカー音量レベル (4.Level Cal)」（➔ P.60）の設定画面を表示させてから、NR-365をスタンバイ状態にしてください。

ご注意
- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「スピーカー詳細設定 (2.Sp Config)」で「No」または「None」に設定したスピーカー（➔ P.59）は調整できません。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。

Audyssey®（オーディシー）の設定

■ Audyssey

「入力ソースの設定 (6.Source Setup)」の「Audyssey」をご覧ください（➔ P.62）。

■ Dynamic EQ（ダイナミック）

「入力ソースの設定 (6.Source Setup)」の「Dynamic EQ」をご覧ください（➔ P.62）。

■ Dynamic Volume（ボリューム）

「入力ソースの設定 (6.Source Setup)」の「Dynamic Volume」をご覧ください（➔ P.63）。

ご注意
- 以下の項目すべてに該当する場合、この機能を使用できます：
  - 自動スピーカー設定を行っている。
  - 「Audyssey」を使用するには「Audyssey 2EQ Full（フル） Calibration（キャリブレーション）」で設定する必要があります（➔ P.40）。
  - Directリスニングモード以外のリスニングモードを選択している。
  - ヘッドホンを接続していない。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定できます。

レイトナイト

■ Late Night

Dolby Digital、Dolby Digital Plusを再生するときは、以下の項目から選びます。

- Off
- Low：
  音量幅を小さくします。
- High：
  音量幅をさらに小さくします。

Dolby TrueHDを再生するときは、以下の項目から選びます。

- Auto：
  レイトナイト機能は、自動で「**On**」か「**Off**」に設定されます。
- Off
- On

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには、音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに、音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。

この機能は、音声信号が入力されているときに設定されます。また、NR-365をスタンバイ状態にすると解除されます。

ご注意

- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。
- レイトナイト機能は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDソースにのみ効果があります。
- レイトナイト機能は、NR-365をスタンバイ状態にすると「**Off**」に設定されます。Dolby TrueHDソースの場合は、「**Auto**」に設定されます。

ミュージックオプティマイザー

■ Music Optimizer

- Off
- On

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。入力ソースごとに設定を記憶します。「**On**」に設定した場合、**M.OPT**表示が点灯します。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が48 kHz以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。
- リスニングモードが「Direct」のときは、効果がありません。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定されます。

シネマフィルター

この機能は、高音域が強調されたサウンドトラックをホームシアター用に補正します。

■ Cinema Filter

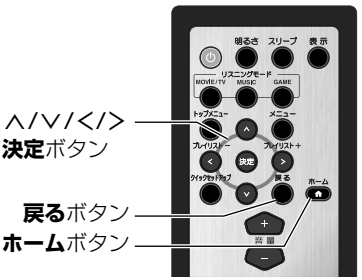
- Off
- On

この機能が使用できるリスニングモードは、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Dolby PL II Movie、マルチチャンネル、DTS、DTS Neo:6 Cinema、DTS 96/24、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS Expressです。

ご注意

- シネマフィルター機能は、ある特定の入力ソースを使用した場合、機能しないことがあります。

Setupメニュー（ホーム）を使う



1 **ホーム**ボタンを押す

2 **∧/∨ ボタンを押して「Setup」を選び、決定ボタンを押す**

3 **∧/∨ ボタンを押してメニュー項目を選び、決定ボタンを押す**

4 **∧/∨ ボタンを押して設定項目を選び、</> ボタンで設定オプションを変更する**

ホームボタンを押すと、設定を終了します。

戻るボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

セットアップメニュー項目

メニュー項目	説明
1. Input Assign（→ P.58）	入力切換の割り当てを変更します。
2. Sp Config（→ P.59）	接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。
3. Sp Distance（→ P.60）	視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
4. Level Cal（→ P.60）	各スピーカーからのテスト音の音量が同じに聞こえるようにスピーカーの音量レベルを設定します。
5. Audio Adjust（→ P.61）	リスニングモードや接続した機器によって音響効果をお好みに設定します。
6. Source Setup（→ P.62）	入力ソースの設定をします。
7. Hardware（→ P.65）	ボリュームや自動スタンバイの設定をします。
8. HDMI Setup（→ P.65）	HDMI接続した場合の設定をします。
9. Network Setup（→ P.68）	ネットワーク接続した場合の設定をします。

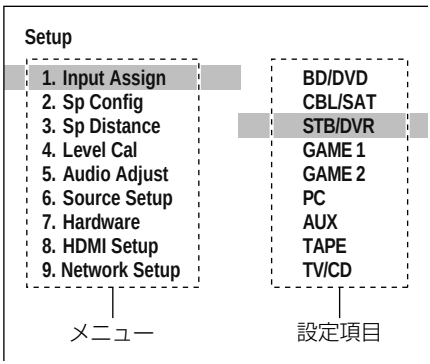
セットアップメニューのみかた

① スピーカー詳細設定 (2.Sp Config)

② ■Subwoofer

③ ▸Yes
▸No

①メニュー項目
②設定項目
③設定オプション（下線付きで表示されている設定オプションは、お買い上げ時の設定です。）

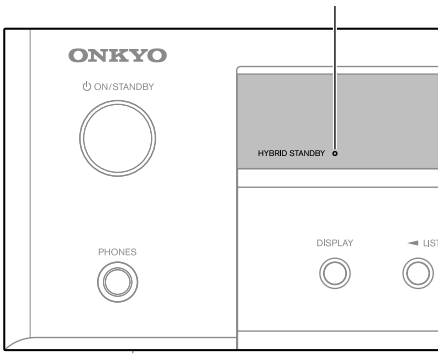


HYBRID STANDBYインジケーターについて

電源回路の最適化により、NR-365がスタンバイ状態時の消費電力の上昇を抑えられる機能です。**HYBRID STANDBY**（ハイブリッド スタンバイ）インジケーターは以下のいずれかの場合に点灯します：

- 「**HDMI Through**（スルー）」を有効に設定している場合
- 「**Network Standby**（ネットワーク）」を有効に設定している場合

HYBRID STANDBY インジケーター



入力端子の割り当て (1.Input Assign)

1 ホーム ► 2 ► 3 「Setup」 ► 4

各入力端子には、お買い上げ時の設定で「**BD/DVD**」、「**CBL/SAT**」などの入力切換が割り当てられています。たとえば、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーを、お買い上げ時の設定どおりにNR-365の**HDMI IN 1**端子に接続すると、入力切換で「**BD/DVD**」を選択するだけで、接続した機器の映像や音声を簡単にNR-365で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	入力端子の割り当て
BD/DVD	HDMI1
CBL/SAT	COAXIAL
STB/DVR	HDMI2
GAME 1	HDMI3
GAME 2	OPTICAL 1
PC	HDMI4
AUX	LINE 1
TAPE	LINE 2
TV/CD	OPTICAL 2

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーをNR-365の**HDMI IN 2**端子に接続したときは、「**BD/DVD**」の割り当てを「**HDMI2**」に変更してください。

■BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME 1、GAME 2、PC、AUX、TAPE、TV/CD

▸HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、COAXIAL、OPTICAL 1、OPTICAL 2、LINE 1、LINE 2：
映像/音声機器を各入力端子に接続した場合に選びます。

▸- - - - - - - - -：
「- - - - - - - - -」に設定すると、入力切換時に設定した入力セレクタがスキップされます。

ご注意

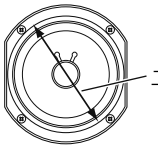
- 「HDMI Ctrl (RIHD)」の設定が「On」のときは、**HDMI IN**端子に接続された機器を、**TV/CD**入力に割り当てないでください (→ P.65)。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。
- 「HDMI Through」で選択されている入力に「- - - - - - - - -」が割り当てられている場合、「HDMI Through」の設定は自動的に「Off」になります (→ P.66)。

スピーカー詳細設定 (2.Sp Config)

1 ホーム ► 2 ► 3 「Setup」 ► 4

自動スピーカー設定（→ P.40）を行った場合は、自動で設定されています。

接続したスピーカーの「有/無」と「大きさ」を設定します。



目安としては、お手持ちのスピーカーのユニット部が直径16cm以上の場合は「Large」、それ以下の場合は「Small」を選んでください。

ご注意
- 以下の場合は、設定できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - 「Audio TV Out」設定を「On」にしている（→ P.66）。
  - 「HDMI Ctrl (RIHD)」を「On」にして（→ P.65）、テレビのスピーカーで聴いている。

■ Subwoofer
- Yes
- No

■ Front
- Small:
- Large:
  スピーカーの大きさを選びます。

ご注意
- Subwooferの設定で「No」を選択した場合、フロントスピーカーは「Large」に固定されるため、この項目は選択できません。

■ Center*1, Surround*1
- Small:
- Large:
  スピーカーの大きさを選びます。
- None

ご注意

*1 フロントスピーカーの設定で「Small」を選択した場合は、「Large」は選択できません。

■ Crossover (Crossover Frequency)

クロスオーバー設定値を環境にあった数値に設定します。目安としてサブウーファーを使用する場合は、フロントスピーカーのユニット部の直径を、サブウーファーを使用しない場合は本ページで最初に「Small」に設定したスピーカーユニットの直径を目安にします。
- 40 Hz、50 Hz、60 Hz、70 Hz、80 Hz、90 Hz、100 Hz、120 Hz、150 Hz、200 Hz

ユニット部の直径	クロスオーバー設定値
20cm以上	40/50/60
16～20cm	70/80/90
13～16cm	100
9～13cm	120
9cm以下	150/200

■ Double Bass

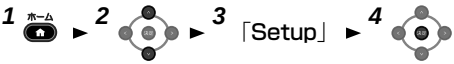
自動スピーカー設定を行っても、自動で設定されません（→ P.40）。

- On
- Off

ダブルバス機能を利用すると、左右フロントチャンネル、センターチャンネルの低音がサブウーファーに送られ、低音の出力が強調されます。

ご注意
- 「Subwoofer」設定が「No」、または「Front」設定が「Small」以外に設定されている場合、この設定は「Off」に固定されます。
- 初めて「Subwoofer」設定を「Yes」、「Front」設定を「Large」に設定した場合、この設定は「On」に切り換わります。

スピーカー距離 (3.Sp Distance)



自動スピーカー設定（➔ P.40）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの、音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

ご注意

- 以下の場合は、設定できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - 「Audio TV Out」設定を「On」にしている（➔ P.66）。
  - 「HDMI Ctrl (RIHD)」を「On」にして（➔ P.65）、テレビのスピーカーで聴いている。

■ Unit

▸ meters：
距離をメートルで設定できます。指定可能な範囲：0.3 メートル単位で、0.3m ～9.0m

▸ feet：
距離をフィートで設定できます。指定可能な範囲：1フィート単位で、1ft～30ft

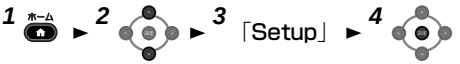
■ Left、Center、Right、Surround Right、Surround Left、Subwoofer

▸ 各スピーカーと視聴位置の距離を指定します。

ご注意

- スピーカーの設定で「No」または「None」に設定したスピーカー（➔ P.59）は選ぶことができません。

スピーカー音量レベル (4.Level Cal)



自動スピーカー設定（➔ P.40）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が、同じに聴こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

ご注意

- 以下の場合は、設定できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - 「Audio TV Out」設定を「On」にしている（➔ P.66）。
  - 「HDMI Ctrl (RIHD)」を「On」にして（➔ P.65）、テレビのスピーカーで聴いている。
  - ミューティング中。

■ Left、Center*1、Right、Surround Right、Surround Left

▸ 1dB単位で－12 dB～0 dB～+12 dB

■ Subwoofer*1

▸ 1dB単位で－15 dB～0 dB～+12 dB

ご注意

- スピーカーの設定で「No」または「None」に設定したスピーカー（➔ P.59）は選ぶことができません。

*1 センタースピーカーとサブウーファーについては、Quick Setup メニューで設定した音量がこの設定で保存されます（➔ P.54）。

音の設定・調整 (5.Audio Adjust)

1 ホーム ► 2 ► 3 「Setup」 ► 4

リスニングモードや接続した機器によって、音響効果をお好みに調整しておくことができます。

多重音声/モノラル

■ Input Ch (Mux)
(インプット チャンネル マルチプレックス)

- Main (メイン)
- Sub (サブ)
- Main/Sub

多重音声や多重言語の放送などで、音声や言語を選択します。**表示**ボタンを押して、表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら、音声多重放送です。

■ Input Ch (Mono)
(モノ)

- Left+Right (レフト ライト)
- Left
- Right

2チャンネルで収録された、Dolby Digital (ドルビー デジタル)などのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、Monoリスニングモードで再生するときに使用する、信号チャンネルを設定します。

Dolby

2チャンネルで記録された、Dolby Digitalなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「PLII Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。

■ Panorama
(パノラマ)

- On
- Off

音場を横方向に広げることができます。

■ Dimension
(ディメンション)

- -3～0～+3

音場を前方または後方へ移動させることができます。
「0」を中心に、「−1」、「−2」、「−3」にすると前方へ、「+1」、「+2」、「+3」にすると後方へ移動します。広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整すると、バランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整すると、バランスが良くなります。

■ Center Width
(センター ウィドス)

- 0～3～7

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic II (プロ ロジック ミュージック) Musicでは、センタースピーカーがある場合は、センターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。(センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。)この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。

DTS

■ Center Image

▸0～2～5

DTS Neo:6 Musicは、2チャンネルで収録されたソースを、6チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使って、センターチャンネルの音声を作り出します。
フロント音場の広がり感を調整することができます。
「**0**」に設定すると、フロント音場が中央寄りになり、「**5**」に設定するとフロント音場が左右に広がります。

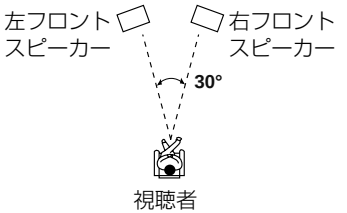
Theater-Dimensional

■ Listening Angle

▸**Wide**：
リスニング角度が30°より広い場合に選びます。

▸**Narrow**：
リスニング角度が30°より狭い場合に選びます。

Theater-Dimensionalリスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。



ヒント

- スピーカーの設置角度は20°（**Narrow**）/ 40°（**Wide**）を推奨します。

入力ソースの設定 (6.Source Setup)

1 ► 2 ► 3「Setup」► 4

項目は、入力セレクタごとに個別に設定できます。

準備
調整したい入力を選び、接続機器を再生してください。

Audyssey®

自動スピーカー設定を行った後に設定してください（➔ P.40）。
- 以下の場合、この機能は使用できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - Directリスニングモードを選択している。

■ Audyssey

▸**Off**

▸**Movie**：
映画鑑賞に適しています。
Audyssey表示が点灯します。

▸**Music**：
音楽鑑賞に適しています。
Audyssey表示が点灯します。

ご注意
- 自動スピーカー設定のうち、「**Audyssey Quick Start**」方法で測定した場合、「**Audyssey**」は選べません。
- DSDソースにはこの機能は働きません。

■ Dynamic EQ

▸**Off**

▸**On**：
Audyssey Dynamic EQ®機能が適用されます。
Dynamic EQ表示が点灯します。
小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、

人間の聴覚特性などを考慮しながら、周波数特性の補正を行います。

■ Reference Level

- **0 dB**：
  映画鑑賞に適しています。
- **5 dB**：
  クラシック音楽など、とても広いダイナミックレンジを持つソースに適しています。
- **10 dB**：
  ジャズや様々な音楽など、広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。また、通常基準レベルより10dB低くミックスされた、テレビ番組にも適しています。
- **15 dB**：
  ポップス/ロック音楽など、高いリスニングレベルでミックスされた音源や、圧縮されたダイナミックレンジを持つソースに適しています。

映画は、音響の影響を考慮して調整された環境で、基準レベルでミキシングされます。
ホームシアターで同じ基準レベルで楽しむためには、スピーカーの音量レベル（Level Cal設定値）を－30dB FSの帯域制限（500Hz～2000Hz）されたピンクノイズで、75dBの音圧が視聴位置で聴こえるように調整する必要があります。
Audyssey 2EQ®は、音量が64のときに基準レベルで再生されるように、自動的にスピーカーレベルを調整します。
Audyssey Dynamic EQは、映画の標準ミキシングレベルを基準にしていますので、音量を64よりも下げたときでもオリジナルの周波数特性と、サラウンド感が得られるように、自動的に調整することができます。
しかし、音楽またはフィルム以外のソースの場合は、映画の基準レベルが適切というわけではありません。
Reference Levelは映画の基準レベルが使われていないソースにも対応できるように、3種類のオフセットモードを用意しています。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」設定を「**Off**」に設定している場合は、この設定は選べません。

■ Dynamic Volume

- **Off**
- **Light**：
  低圧縮モードが適用されます。
- **Medium**：
  標準圧縮モードが適用されます。
- **Heavy**：
  高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与えます。爆発シーンなど音量が大きいパートでは音量を下げ、静かなパートでは聴き取りやすいように音量を上げます。

ヒント

- Dynamic Volumeを有効に設定すると「**Dynamic EQ**」は「**On**」に設定され**Dynamic Vol**表示が点灯します。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」を「**Off**」に設定すると「**Dynamic Volume**」も連動して「**Off**」になります。

Audyssey Dynamic EQ®について
Audyssey Dynamic EQは、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQは、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。
Dynamic EQは単独でも有効に機能しますが、Audyssey 2EQ技術と連動することにより、すべての音量レベルに対して最適なバランスの音質を、すべての視聴者に提供します。

Audyssey Dynamic Volume®について

Audyssey Dynamic Volumeは、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。

Dynamic Volumeは、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volumeは単独でも有効に機能しますが、Audyssey Dynamic EQを取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り換え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り換え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

A/Vシンク（映像遅延補正）

■A/V Sync

▶10 msec単位で、**0 msec**～**400 msec**

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で音声の遅延を調整することができます。再生される映像を見ながら調整するには、**決定**ボタンを押してください。

前の画面に戻るには**戻る**ボタンを押してください。

調整できる範囲はHDMIの「**LipSync**」設定が「**On**」の場合（➔ **P.67**）、またはお使いのテレビがHDMIリップシンク機能に対応している場合で異なります。

ご注意

- A/Vシンク機能はアナログ入力信号をDirectリスニングモードで再生する場合、効果がありません。
- 「**NET**」、「**USB**」入力セレクタには使用できません。

セレクタ名変更

■Name

▶**- - -**、**Blu-ray**、**DVD**、**HD DVD**、**VCR**、**DVR**、**Tivo**、**CBL STB**、**SAT STB**、**PS3**、**Wii**、**Xbox**、**PC**、**TV**、**CD**、**TAPE**、**iPod**、**DOCK**：

初期値に戻す場合、「- - -」を選んでください。

各入力切換に好きな名前を選択して、識別しやすいようにできます。選択した名前が表示部に表示されます。

ご注意

- 同じ名前を複数のセレクタに割り当てることはできません。
- 「**NET**」、「**USB**」入力セレクタには使用できません。
- オンキヨー製のRI端子付きRIドックを使用する場合は、入力表示を「**DOCK**」にしてください。

音声入力

■Fixed Mode

▶**Off**：

デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

▶**PCM**：

PCMの2チャンネル入力信号のみ聴こえます。PCM以外の音声が入力された場合、**PCM**表示が点滅し、ノイズが生じます。

▶**DTS**：

DTS（DTS-HDは除く）の入力信号のみ聴こえます。DTS以外の音声が入力された場合、**dts**表示が点滅し、音が出ません。

「**HDMI**」、「**COAXIAL（同軸入力）**」、「**OPTICAL（光入力）**」を割り当てているセレクタを選択した場合、「**Fixed Mode**」で入力信号を指定することができます。

DTSやPCM信号の再生中に、ノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

- PCMソースのトラックの冒頭が切れる場合は、PCMに設定してみてください。
- DTS CDを早送りまたは巻き戻しすると、ノイズが発生する場合は、DTSに設定してみてください。

ハードウェア設定（7.Hardware）

1 ホーム ► 2 ► 3 「Setup」 ► 4

■ Volume OSD（ボリューム）

- On
- Off

NR-365のボリュームを調節したときに、ボリューム・レベルを画面に表示するかどうかを設定します。

■ Auto Standby（オート スタンバイ）

- Off
- On

「**On**」に設定した場合、**ASb**表示が点灯し、映像/音声入力がない状態でNR-365を30分間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。
スタンバイ状態へ移行する30秒前に、NR-365表示部とメニュー画面に「**Auto Standby**」と表示されます。

ご注意

- この設定を「**On**」にした場合、ソースによっては、再生中にスタンバイ状態に移行することがあります。

HDMI設定（8. HDMI Setup）

1 ホーム ► 2 ► 3 「Setup」 ► 4

■ HDMI Ctrl（コントロール） (RIHD)

- Off
- On

NR-365とHDMI接続したCEC対応テレビや、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。
ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などを行う必要があります。
詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

- 「**On**」に設定してメニューを閉じると、NR-365の表示部に、接続したRIHD対応機器名称と、「**RIHD On**」を表示します。
  表示例：“**Search**（サーチ）…” → “**(機器名称)**” → “**RIHD On**”
  接続した機器の名称が取得できないときは、「**Player**（プレーヤー）＊」または「**Recorder**（レコーダー）＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- RIHD対応機器がNR-365とHDMI接続されたとき、NR-365の表示部に、接続機器の名称が表示されます。例えば、テレビ番組を見ているとき、NR-365のリモコンを使用してブルーレイディスク/DVD操作を行ったなら、NR-365の表示部にブルーレイディスク/DVDプレーヤーの名称が表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「**Off**」に設定してください。
- 「**On**」に設定して、おかしな動作をする場合は「**Off**」にしてください。
- 「**HDMI Ctrl (RIHD)**」を「**On**」に設定した場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります。）
- 「**HDMI Ctrl (RIHD)**」を「**On**」に設定した場合、接続機器はRI接続しないでください。機器が故障する場合があります。

■HDMI Through

- Off
- BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME 1、GAME 2、PC、AUX、TAPE、TV/CD：
  HDMIスルー機能を有効にする入力ソースを選択します。
- Last：
  NR-365をスタンバイ状態にする前に選択していた入力ソースにHDMIスルー機能を有効にします。

「HDMI Ctrl (RIHD)」設定を「On」に設定したときに、この設定は「Auto」に固定されます。

HDMIスルー機能は、NR-365がスタンバイ状態においても、HDMI入力端子から入力された映像信号を、HDMI接続したテレビや他機器に出力します。

詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

スタンバイモードでHDMIスルー機能が有効になると、**HYBRID STANDBY** インジケーターが点灯します。（➔ **P.57**）。

ご注意

- 「Input Assign」でHDMIが割り当てられている入力ソースのみに有効です（➔ **P.58**）。
- HDMIスルー機能の使用中は、NR-365がスタンバイ状態でも電力消費が増大しますが、CECに対応したテレビを使っていて、以下の場合は電力消費を低減できます：
  - テレビがスタンバイ状態になっている。
  - テレビ番組を視聴している。
- 「Auto」に設定されている場合、接続した機器によっては正しい入力ソースを選択しない場合もあります。
- 「HDMI Ctrl (RIHD)」設定を「Off」にした場合、この設定は連動して「Off」に設定されます。

■Audio TV Out

- Off
- On

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。NR-365のHDMI 出力端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、NR-365の電源がオンの状態でテレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「Off」にしておいてください。

「HDMI Ctrl (RIHD)」の設定が「On」の場合、自動的に「Auto」となり「On」、「Off」の設定は出来ません（➔ **P.65**）。

ご注意

- 「Audio TV Out」が「On」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。その場合、**表示**ボタンを押すと、表示部に「TV Speaker」が表示されます。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「On」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「Audio TV Out」または、「HDMI Ctrl (RIHD)」の設定が「On」になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（➔ **P.23**）、NR-365の **MASTER VOLUME**つまみを操作すると、NR-365の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、NR-365またはテレビの設定を変えるか、NR-365の音量を下げてください。
- 「On」に設定してHDMI以外の入力を選んでいるときは、リスニングモードを変更できません。

■Audio Return Ch (ARC)

- Off
- Auto：
  テレビチューナーの音声信号をNR-365の**HDMI OUT**端子に送ることができます。

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、HDMIで接続したテレビの音声信号を、NR-365の**HDMI OUT**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。
HDMIケーブルでテレビとNR-365を接続するだけで、NR-365でテレビの音を楽しんだり、NR-365に接続したAV機器の映像や音をテレビに出力することができます。
ARC機能を使用するには、まず入力切換で「**TV/CD**」を選択します。
次に「**HDMI Ctrl (RIHD)**」を「**On**」に設定し、「**Audio Return Ch**」設定を「**Auto**」に設定してください。
「**HDMI Ctrl (RIHD)**」設定を初めて「**On**」に設定したときに、この設定は自動的に「**Auto**」に設定されます。初期設定：「- - - -」

ご注意

- 「**Audio Return Ch**」設定は、「**HDMI Ctrl (RIHD)**」設定を「**On**」に設定しているときしか設定できません。

「**HDMI Ctrl (RIHD)**」、「**HDMI Through**」、「**Audio Return Ch**」、の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、電源を入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

■Genre Control

- Off
- Auto

HDMI接続しているテレビのジャンル情報に応じて、リスニングモードを自動的に切り換えることができます。
「**HDMI Ctrl (RIHD)**」設定を初めて「**On**」に設定したときに、この設定は自動的に「**Auto**」に設定されます。

ご注意

- 「**Genre Control**」設定は、「**HDMI Ctrl (RIHD)**」設定を「**On**」に設定しているときしか設定できません。
- リスニングモードは手動で切り換えることができますが、ジャンル情報が変わると、自動的に対応するリスニングモードに切り換わります。
- 本機能の対応テレビは、東芝製のレグザリンク対応テレビの一部、日立製Woooリンク対応テレビの一部です。詳しくはオンキヨーホームページでご確認ください。
- ヘッドホンを接続している場合、設定できません。

■LipSync

- Off
- On

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレをNR-365で自動的に補正するかどうかを設定します。

ご注意

- リップシンク機能はHDMI Lip Sync対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。

■InstaPrevue

この設定では、ホームメニューの「**InstaPrevue**」で表示される、HDMI入力映像のプレビュー表示を設定します。

Sub Window

- Multi：
  HDMI INのプレビュー画面を一括して表示します。
- Single：
  HDMI INのプレビュー画面を個別に表示します。

子画面で表示するプレビュー画面の数を設定します。

Position

（「**Sub Window**」を「**Multi**」に設定している場合）

- Top、Bottom、Left、Right

（「**Sub Window**」を「**Single**」に設定している場合）

- UpperL、Upper R 、LowerL、LowerR

子画面で表示するプレビュー画面の位置を設定します。

ご注意

- 映像の信号方式によっては、子画面に正しく表示されないことがあります。

ネットワーク (9. Network Setup)

1 ホーム ► 2 ► 3 「Setup」 ► 4

ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「Save」を実施する必要があります。

NR-365をホームネットワーク（LAN）に接続して使えるようにするためにネットワーク設定をする必要があります。
ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「Save」を実施する必要があります。
DHCPでホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「DHCP」を「Enable」にすれば、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）
各機器に固定IPアドレスを割り当てている場合は、「IP Address」でNR-365にIPアドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

■MAC Address

NR-365のMACアドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■DHCP

- Enable
- Disable

この設定でNR-365のIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーを自動で設定するかどうかを設定します。

ご注意

- 「Disable」を選んだ場合、「IP Address」、「Subnet Mask」、「Gateway」、「DNS Server」を手動で設定してください。

■IP Address

- Class A：
  「10.0.0.0」～「10.255.255.255」
- Class B：
  「172.16.0.0」～
  「172.31.255.255」
- Class C：
  「192.168.0.0」～
  「192.168.255.255」

ISPから提供されたIPアドレスを入力してください。
ほとんどのルータはClass Cを使用します。

■Subnet Mask

ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。

■Gateway

ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。

■DNS Server

ホームネットワーク（LAN）のDNSサーバー（プライマリ）を表示または設定します。

■Proxy URL

プロキシサーバーのURLを入力します。URLが不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■Proxy Port

この設定は上記「Proxy URL」設定が入力されているときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力します。ポート番号が不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■ Network Standby

- On
- Off

ネットワークを通じてNR-365をコントロールできるかどうかを設定します。

ご注意

- 「On」に設定している場合、**HYBRID STANDBY** インジケーターが点灯し（→ P.57）、スタンバイ状態での消費電力が増加します。

■ Update Notice

- Enable
- Disable

この設定を有効にすると、ネットワーク経由でファームウェアの更新がある場合に通知します。

ご注意

- アップデート通知画面で「Never Remind me」を選んだ場合、この設定は「Disable」に切り換わります。
- ファームウェアの更新通知メッセージについて詳しくは、「「Update New F/W」というメッセージが表示される」をご覧ください（→ P.27）。

オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する

オンキヨー製ドックを使う

ドックは別売りです。
ドックの最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。
http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用のiPod/iPhoneをiTunes経由で最新のバージョンにアップデートしてください。
対応しているiPod/iPhoneのモデルについては、オンキヨー製ドックの取扱説明書をご覧ください。

RIドック

RIドックを使うと、簡単な操作で、iPod/iPhoneに保存した音楽をすばらしいサウンドで再生して楽しめます。また、表示部を見ながら、iPod/iPhoneのコンテンツを表示部で確認・検索・選択でき、付属のリモコンで、ソファにゆったり座ったままiPod/iPhoneを操作することが可能です。NR-365のリモコンでも操作できます。

■操作をはじめる前に

1. RIドックは、**RI**ケーブルでNR-365に接続してください（➔ **P.25**）。
2. RIドックのRI MODE（モード）切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK（ドック）」に切り換えてください。
3. NR-365の入力表示を「**DOCK**」にしてください（➔ **P.64**）。

■システム機能

iPod/iPhoneとの連動動作は、iPod/iPhoneの機種や世代により対応していないものがあります。

システムオン
NR-365の電源を入れると、自動的にRIドック、iPod/iPhoneの電源が入ります。

オートパワーオン機能
NR-365がスタンバイ状態のときにiPod/iPhoneを再生すると、NR-365はiPod/iPhoneを接続した入力に切り換わり、iPod/iPhoneの再生が始まります。

ダイレクトチェンジ動作
NR-365が他の入力のとき、リモコンでiPod/iPhoneを再生すると、iPod/iPhoneを接続した入力に自動的に切り換わり、iPod/iPhoneの再生をします。

NR-365リモコン操作
NR-365のリモコンで、iPod/iPhoneの基本的な操作を行うことができます。

ご注意
- iPod/iPhoneに他のアクセサリーが接続されていた場合、NR-365は適切に入力を選べないことがあります。

iPodアラーム機能
iPodのアラーム機能を利用して再生を開始すると、指定した時刻にNR-365の電源が入り、iPodが入力ソースに選ばれます。

ご注意
- 映像の再生中や音楽以外のiPod内蔵の効果音（ビープ音）をアラーム音として設定している場合は、連動操作は機能しません。
- 音楽（楽曲）をアラーム音として設定できない機種はこの機能を使用できません。

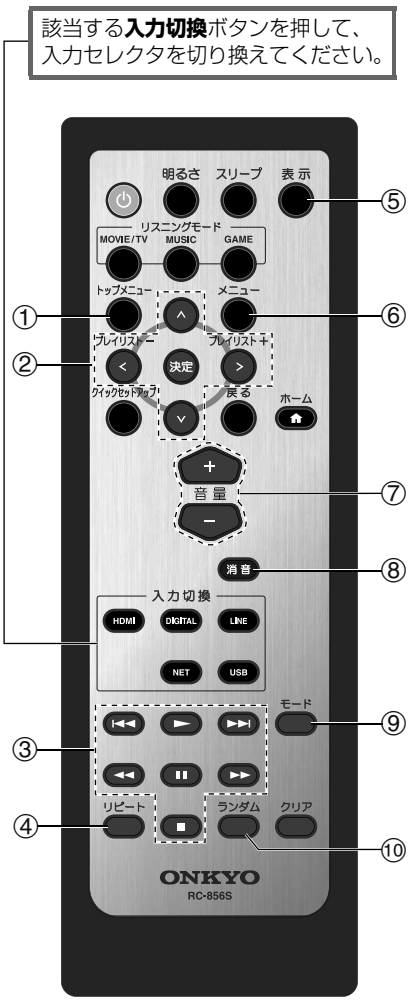
■操作に関するご注意
- NR-365のボリュームつまみで、再生音量を調整してください。
- iPod/iPhoneがRIドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。
- ドックにセットされたiPod/iPhoneの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。

iPod/iPhoneを操作する

入力表示を「**DOCK**」に変更した入力セレクタに切り換えることで、iPod/iPhoneドックにセットされたiPod/iPhoneを操作することができます。
入力表示を「**DOCK**」に変更する方法については、「**Name**」をご覧ください（➔ P.64）。

RIドック

- RIドックのRI MODEスイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に設定してください。



■RIドックの操作

使用できるボタン			
①	**トップメニュー** *1	⑤	**表示** *2
②	∧/∨/</>、**決定**	⑥	**メニュー**
	プレイリスト−/＋	⑦	**音量＋/−**
③	►、❚❚、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I	⑧	**消音**
		⑨	**モード**
④	**リピート**	⑩	**ランダム**

- iPod/iPhoneの機種・世代またはRIドックによっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。
- iPod/iPhoneおよびRIドックの操作の詳細については、RIドックに付属の取扱説明書をご覧ください。

*1 DS-A1 RIドックの場合、**トップメニュー**ボタンは**モード**ボタンとして機能します。
*2 **表示**ボタンを押すと、バックライトが数秒間点灯します。

困ったときは

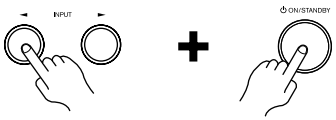
まず下記の内容を点検してみてください（文章の最後にある数字は参照ページ数です）。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

ヒント

修理を依頼される前に

NR-365が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、NR-365をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順でNR-365をリセットしてみてください。
電源を入れた状態でINPUT ◄ボタンを押したまま、⏻ON/STANDBY（オン スタンバイ）ボタンを押す

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。



初期設定に戻すと、ユーザー設定が消去されます。

操作画面は、NR-365とHDMI接続（HDMI OUT（アウト））しているテレビのみに表示されます。NR-365とテレビを接続していない場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

電源

■電源が入らない

電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。

一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

■NR-365の電源が切れる場合

自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります。 65

■電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

保護回路が動作しています。すぐにコンセントから電源コードを抜いてください。すべてのスピーカーコードと入力ソースの接続を確認して異常がなければ、電源コードを抜いた状態で1時間待ちます。
そのあと、電源コードを差し込んで、NR-365の電源を入れてください。
それでもなお電源が切れる場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。
ご注意：表示部に「CHECK SP WIRE」が表示された場合は、スピーカーコードがショートしている可能性があります。 21

⚠ 警告

煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

■音声が出力されない/小さい

適切なデジタル入力ソースが選ばれていることを確認してください。	58
接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。	22
接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。	23～25
スピーカーコードの⊕/⊖は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。	21
入力が正しく選択できているか確認してください。	28
スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。	21
ボリューム位置を確認してください。NR-365は基本的にMin、1…79、Max（80）まで調整できます。一般のご家庭で40前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。	
表示部の**MUTING**（ミューティング）表示が点滅している場合、リモコンの**消音**ボタンを押してミューティングを解除してください。	
ヘッドフォンを**PHONES**（フォーンズ）端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。	51
HDMI IN（イン）端子に接続したDVDプレーヤーから音が出ない場合は、DVDプレーヤーの出力設定を確認し、対応している音声フォーマットを選んでください。	
接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。	
一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。	
MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプとフォノイコライザが必要です。	
接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。	
リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。	44
自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無」と「**Crossover**（クロスオーバー）」、「**Sp Distance**（スピーカー ディスタンス）」、「**Level Cal**（レベル キャリブレーション）」設定を手動で行ってください。	59～60
測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。	
入力信号フォーマットが「**PCM**」または「**DTS**」に設定されている場合は、「**Off**」に設定してください。	64

■フロントスピーカーからしか音が出ない

Stereo（ステレオ）またはMono（モノ）のリスニングモードを選んでいる場合は、フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	59

■センタースピーカーからしか音が出ない

テレビなどモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをDolby（ドルビー）Pro Logic（プロ ロジック）IIにすると、センタースピーカーに音が集中します。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	59

■サラウンドスピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereoやMono、T-D（Theater-Dimensional（シアター ディメンショナル））のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。	
入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	59

■センタースピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereo、Monoのときは、センタースピーカーから音が出ません。	
スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。	59

■サブウーファーから音が出ない

入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 59

■希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。 58

接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。

■希望するリスニングモードが選べない

スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「リスニングモード」でご確認ください。 46

■音量に関する設定が希望通りにならない

付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「Level Cal」の設定を変更した場合は、最大音量値が変わる場合があります。 60

■ノイズが聴こえる

コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。

オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。

■レイトナイト機能が働かない

再生ソースがDolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby True HDのいずれかになっているか確認してください。 55

■DTS信号について

DTS信号を再生しているときは、NR-365の**dts**表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても**dts**表示が点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。

一部のCDまたはLDプレーヤーでは、NR-365とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、NR-365が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。

DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

■HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない

HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。

映像

■映像が出ない/乱れる

すべての接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれていることを確認してください。	22
各映像機器が正しく接続されていることを確認してください。	23、24
映像機器をHDMI入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、HDMI出力端子にテレビを接続してください。	23、58
テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。	

■HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。	85

■設定画面表示が出ない/操作内容が画面に表示されない

ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。	

リモコン

■リモコン操作ができない

電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。	12
新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。	12
リモコンとNR-365が離れ過ぎていないこと、リモコンとNR-365のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください。	12
本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。	
本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置していると、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。	

■RIケーブルを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ケーブルも接続してください（RIケーブルだけでは正しく連動しません）。	25
入力表示が正しく設定されているか確認してください（例：**LINE IN2**端子にRIドックを接続した場合）。	64

RI ドック

■音が出ない

iPod/iPhoneが再生していることをご確認してください。	
iPod/iPhoneがドックに正しく接続されているか確認してください。	
NR-365の電源が入っているか、適切な入力が選ばれているか、音量が小さくなっていないか確認してください。	
接続コードやケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。	
一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。	

■iPod/iPhoneがNR-365のリモコンで操作できない

iPod/iPhoneがドックにしっかり接続されているか確認してください。iPod/iPhoneをケースなどに入れている場合は、完全に接続できないことがありますので、必ずケースをはずして接続してください。	
iPod/iPhoneの表示部にAppleロゴが表示されている間は操作できません。	
NR-365のリモコンで操作する場合、リモコンはNR-365に向けて操作してください。	
リモコン操作をする前に、iPod/iPhone本体で再生させてセレクタを認識させる必要のある場合があります。	
一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。	
iPod/iPhoneの機種・世代によっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。	

■NR-365の入力が勝手に切り換わる

iPod/iPhoneの再生を一時停止しておいてください。iPod/iPhone再生検出機能により、再生曲が切り換わったときなどに、NR-365の入力が切り換わってしまいます。

■iPod/iPhoneが正しく動作しない

一度iPod/iPhoneをドックから抜き、再度接続してみてください。

NET/USB機能

■ネットワークサーバーが使用できない

ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。

ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。

ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。

ルータのLAN側ポートとNR-365が正しく接続されているか確認してください。

NR-365の「**Network Setup**（ネットワーク セットアップ）」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。 68

■ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。 86、89

パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media Player 11など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。

パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。

■インターネットラジオが聴けない

特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録したURLが正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットがNR-365の対応しているものか確認してください。

モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。

他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。

ルータのLAN側ポートとNR-365が正しく接続されているか確認してください。

NR-365の「**Network Setup**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。 68

ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。

お使いのISPがサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。

■インターネットブラウザでNR-365の情報を表示できない

インターネットブラウザにNR-365のIPアドレスが正しく入力されているか確認してください。

IPアドレスの割り当てにDHCPを使用している場合、NR-365のIPアドレスが変わっている可能性があります。

NR-365とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。

■USBストレージが表示されない

USBメモリーやUSBケーブルがNR-365の**USB**端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。

USBストレージをいったんNR-365から外し、再度接続してみてください。

NR-365の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。

セキュリティ機能付きのUSBメモリーの動作は保証できません。

その他

■待機時消費電力について

次の場合は、待機時消費電力が最大5.5Wになる場合があります。 65、66、69
- 「Network Standby」設定が「On」の時
- 「HDMI Ctrl (RIHD)」の設定が「On」の時（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります）
- 「HDMI Through」設定を「Off」以外に設定している時

■ヘッドホンを接続すると音が変わる

Direct、Mono以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereoになります。 51

■多重音声の言語を切り換えたい

「Input Ch (Mux)」設定で「Main/Sub」を選択します。 61

■RI連動機能が働かない

RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。 25

■自動スピーカー設定中に「Ambient noise is too high.」というメッセージが出る

お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。

■スピーカーの距離設定が希望通りにならない

設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。

■本体表示部が暗い

Dimmer機能が働いていませんか？ 50
明るさボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。

■HDMI出力端子に接続しているテレビ/モニターの映像が安定しない場合、DeepColorの機能をオフに切り換えてみてください

DeepColor機能をオフにするには、**INPUT ►**ボタンと⏻**ON/STANDBY**ボタンを同時に押してください。**INPUT ►**ボタンを押しながら、表示部に「Deep Color:Off」が表示されるまで⏻**ON/STANDBY**ボタンをくり返し押してください。DeepColor機能をオンするには、上記の手順で「Deep Color:On」が表示されるまでボタンを押してください。

NR-365はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約5秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

NR-365の電源コードをコンセントから抜くときは、NR-365をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

ファームウェアの更新について

ファームウェアの更新には、次のような方法があります：ネットワーク経由で更新する、USB経由で更新する。
お客様の環境に応じて、いずれかの方法で更新してください。操作を始める前に、更新手順をよくお読みください。

■ネットワーク経由で更新する

インターネット接続が必要です。

■USB経由で更新する（→ P.80）

USBメモリーなどのUSBストレージをご用意ください。32MB以上の容量が必要です。

ご注意

- アップデートの前に、ネットワークの接続を確認してください。
- アップデート中は絶対にNR-365に接続されているケーブルや機器に触らないでください。
- アップデート中は絶対にNR-365の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中はPCからNR-365にアクセスしようとしないでください。
- USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、NR-365では複数のUSBストレージとして認識されます。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- NR-365は、ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器をNR-365に接続しないでください。
- NR-365は、セキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

免責事項

本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することもありません。
弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

最新の更新情報につきましては、弊社ウェブサイトをご覧ください。

ネットワーク経由でのファームウェア更新手順

後面パネルのネットワーク接続を利用してファームウェアをアップデートできます。

* 実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

ご注意

- NR-365とテレビの電源が入っていることと、イーサネットケーブルがNR-365の後面パネルに接続されていることを確認してください。
- アップデート中は絶対にNR-365の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中は絶対にHDMIケーブルやイーサネットケーブルを抜き差ししないでください。
- アップデート中はPCからNR-365にアクセスしようとしないでください。
- アップデート完了まで約10分かかります。
- アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

- 「HDMI Ctrl (RIHD)」設定を「Off」に設定してください（➔ P.65）。
- ホームネットワーク（LAN）に接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
- 再生中のインターネットラジオ、iPod/iPhone、USB、または、サーバーなどを止めてください。

更新手順

1 **リモコンの[ホーム]ボタンを押す**
ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 **「F/W Update」を選び、[決定]ボタンを押す**
本メニューがグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

3 **「Update via NET」を選び、[決定]ボタンを押す**
アップデートが可能なファームウェアが存在しない場合は、選択項目が表示されない為、選択できません。

4 **「Update」を選び、[決定]ボタンを押す**
NR-365はアップデートを開始します。
アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。

5 **アップデートが完了すると「Completed!」というメッセージがNR-365の表示部に表示される**

6 **前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押すと、NR-365はスタンバイ状態になる**
このときリモコンの⏻ボタンは使用しないでください。
3分間何もしなかった場合も、自動的にスタンバイ状態になります。
これでアップデートは完了です。
NR-365は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1：
エラー時は、NR-365の表示部にエラーメッセージまたは「**Error!! *-****」が表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）以下の説明を参照し、確認してください。

■エラーコード（ネットワーク経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
-10、-20	ネットワークが認識できません。ネットワークを正しく接続してください。接続方法については、「ネットワーク機器の接続」をご覧ください（➔ P.86）。
-11、-13、*-21、*-28	インターネットに接続できません。下記の項目を確認してください。 • IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSサーバーが正しく設定されているか確認してください。 • ルーターの電源が入っているか確認してください。 • NR-365とルーターがイーサネットケーブルでつながっているか確認してください。 • ルーターの設定を確認してください。設定については、ルーターの取扱説明書をご覧ください。 • ネットワーク接続環境によっては、プロキシサーバーを設定する必要があります。設定については、ご利用の回線業者やプロバイダの資料をご確認ください。それでもインターネットにつながらない時は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。

エラーコード	エラー内容および対処方法
その他	もう一度最初からやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース2：
アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。
ケース3：
ネットワーク環境がない場合は、巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターへご連絡ください。

USB経由でのファームウェア更新手順

USB端子を利用してファームウェアをアップデートできます。

ご注意
- アップデート中は絶対にNR-365の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中は絶対にHDMIケーブルやUSBストレージを抜き差ししないでください。
- アップデート中はPCからNR-365にアクセスしようとしないでください。
- アップデート完了まで約10分かかります。
- アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

- 「**HDMI Ctrl (RIHD)**」設定を「**Off**」に設定してください（➔ P.65）。
- ホームネットワーク（LAN）に接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
- 再生中のインターネットラジオ、iPod/iPhone、USB、または、サーバーなどを止めてください。
- USBストレージ内にデータがある場合は消去してください。

更新手順

1 お使いのパソコンにUSBストレージを接続し、USBストレージ内にデータがある場合は消去する

2 弊社ホームページからパソコンにファームウェア・ファイルをダウンロードする

ファームウェアには、以下のようなファイル名がついています。
ONKAVR**_**********.zip**
パソコン上でこのファイルを解凍してください。機種により、ファイルやフォルダの数は異なります。

3 解凍したファイルやフォルダを全てUSBストレージにコピーする

解凍する前のファイルはコピーしないでください。

4 上記のUSBストレージをNR-365のUSB端子に接続する

5 NR-365とテレビの電源が入っていることを確認する

NR-365がスタンバイ状態のときは、**ON/STANDBY**ボタンを押してNR-365の表示部を点灯させます。

6 入力ソースをUSBにする

表示部に「**Now Initializing...**」と表示されたのちUSBストレージ名が表示されます。USBストレージを認識するのに20～30秒かかります。

7 リモコンの**ホーム**ボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

8 「**F/W Update**」を選び、**決定**ボタンを押す

9 「**Update via USB**」を選び、**決定**ボタンを押す

アップデートが可能なファームウェアが存在しない場合は、選択項目が表示されない為、選択できません。

10 「Update」を選び、決定ボタンを押す

NR-365はアップデートを開始します。

アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。

11 アップデートが完了すると「Completed!」というメッセージがNR-365の表示部に表示されるので、USBストレージを抜く

12 前面パネルの⏻ON/STANDBYボタンを押すと、NR-365はスタンバイ状態になる

このときリモコンの⏻ボタンは使用しないでください。

3分間何もしなかった場合も、自動的にスタンバイ状態になります。

これでアップデートは完了です。
NR-365は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1：

エラー時は、NR-365の表示部にエラーメッセージまたは「**Error!! *-****」が表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）エラーコードを参照し、確認してください。

■エラーコード（USB経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
-10、-20	USBストレージが認識できません。USBメモリーやUSBケーブルが、NR-365のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
*-14	USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。サポートページの案内に従って、もう一度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース2：

アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。

RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー/レコーダーをご使用になるには

RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。NR-365ではHDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

RIHD連動機能を使用するには、オーディオリターンチャンネル（ARC）を使用するか（→ P.67）、光デジタルケーブルでの接続が必要です。

RIHDと互換性のある機器について

下記の製品がRIHDと互換性があります（2012年1月現在）。最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。

■テレビ【順不同】

- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- 日立製のWoooリンク対応テレビ
- ソニー製のブラビアリンク対応テレビ*1
- シャープ製のテレビ

*1 当社が独自の調査で動作確認した結果です。

■プレーヤー、レコーダー【順不同】

- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のプレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

* 上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意

- 連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのRIHD対応機器を接続しないでください。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
- ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台
- NR-365にHDMIを介して他のAVセンターを接続しないでください。
- RIHD対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしません。

RIHD 接続をするとできる操作

■ RIHD と互換性のあるテレビの場合

NR-365を RIHD と互換性のあるテレビに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- テレビの電源をスタンバイ状態にするとNR-365もスタンバイ状態に切り換わります。
- テレビのメニュー画面で、音声をNR-365に接続したスピーカーから音を出すか、あるいはテレビのスピーカーから音を出すかを設定できます。
- テレビのアンテナや外部入力の映像・音声もNR-365に接続したスピーカーから音を出すことができます。（HDMIケーブル以外に光デジタルケーブル等の接続が必要です。）
- テレビのリモコンでNR-365の入力を選択できます（東芝製のテレビのみ）。
- テレビのリモコンでNR-365の音量調整やその他の操作ができます。

■ RIHD と互換性のあるプレーヤー / レコーダーの場合

NR-365を RIHD と互換性のあるプレーヤー / レコーダーに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

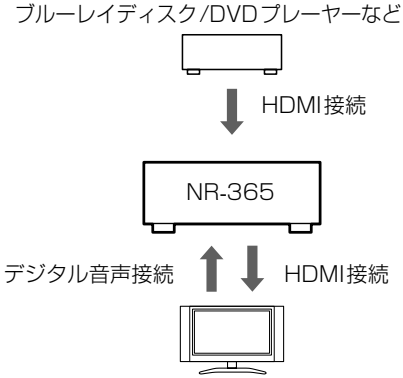
- プレーヤー / レコーダーの再生を開始すると、NR-365の入力がその機器の接続されているHDMI入力に切り換わります。
- NR-365に付属のリモコンでプレーヤー / レコーダーの操作ができます。

* お使いの機器によっては、すべての機能が働くわけではありません。

■接続と設定のしかた

1 接続と設定を確認する

1. NR-365の**HDMI OUT**（アウト）端子にテレビのHDMI入力を接続する。



2. テレビからの音声出力を、光デジタルケーブルでNR-365の**OPTICAL**（オプティカル）**IN 2**（イン）端子に接続する。

ご注意

- オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを使用して、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を利用するときは、この接続は必要ありません（➔ P.67）。

3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）のHDMI出力をNR-365の**HDMI IN 1**端子に接続する。

ご注意

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）を他の端子に接続する場合はHDMI入力の割り当てをする必要があります（➔ P.58）。このとき、**HDMI IN**端子に接続された機器を「**TV/CD**」入力に割り当てないでください。適切な RIHD 連動操作の保証ができなくなります。

2 「HDMI」メニューの各項目を下記の設定にする

- HDMI コントロール Ctrl（RIHD）：On
- Audio オーディオ Return リターン Ch チャンネル（ARC）：Auto

各設定の詳細説明は（➔ P.65、66）をご覧ください。

3 設定の確認をする

1. すべての接続機器の電源を入れます。
2. テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーの電源を入れます。
4. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを再生して、以下のことを確認します。
   - NR-365の電源が自動で入り、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを接続している入力が選択される。
   - テレビの電源が自動で入り、NR-365を接続している入力が選択される。
5. お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出てNR-365に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
6. テレビのメニュー画面から、「NR-365に接続したスピーカーの使用」を選び、NR-365に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意

- 初めてお使いになるときや、各機器の設定を変えたとき、各機器の主電源をオフにしたとき、コンセントから電源コードを抜いたり、停電したりしたときも上記の操作を行ってください。

4 リモコンで操作する

ご注意

- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの音声はテレビのスピーカーから音声が出ないことがあります。DVDプレーヤーの音声出力設定を2ch PCMに設定すれば、テレビのスピーカーから音を出すことができるようになります。（プレーヤーによっては、できないことがあります。）
- テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、NR-365の音量調整や入力の切り換え操作をすると、NR-365に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
- RIやRI EX対応機器と接続してご使用の場合で動作がうまくいかないときは、RIケーブルを外して操作してみてください。
- テレビの入力を、NR-365が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、NR-365の入力は「**TV/CD**」に切り換わります。
- NR-365は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときはNR-365はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
- 組み合わせる機器により、NR-365との連動動作が働かない場合があります。この場合は、NR-365を直接操作してください。
- NR-365のリモコンで、RIHDを利用してプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がRIHDやCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。

HDMIについて

放送のデジタル化に対応することを目的としたHDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応した新しいデジタルインターフェイス規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声コードが個別に必要でした。HDMIでは、1本のコードで、制御信号、デジタル映像、最大8チャンネルのデジタル音声（2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM）を伝送できます。HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）*1規格と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（テレビやモニターによってはこの機能が働かず、映像が出ない場合もあります。）

NR-365はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しているため、HDCPに対応した映像機器のみ映像を表示できます。

NR-365のHDMIインターフェイスは以下の規格に基づいています：
オーディオリターンチャンネル、3D、x.v.Color、DeepColor、Lip Sync、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCM

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1チャンネル、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio）

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権の保護について

NR-365は、デジタル映像信号の著作権保護技術であるHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。NR-365と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要です。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

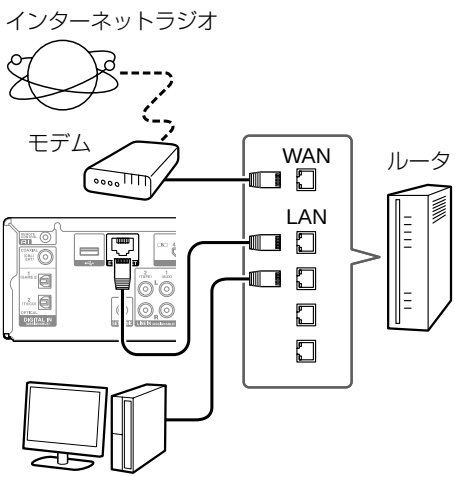
ご注意

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（DVI接続では映像信号しか伝送されないため、別途音声接続を行う必要があります。）しかし、このようなアダプターを利用した場合の正常な動作は保証されていません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMIの音声信号（サンプリングレート、ビット長など）は、接続した機器によって制限を受ける場合があります。HDMI接続した機器の映像の品質がよくない場合や音声が出ない場合は、機器側の設定を確認してください。詳細については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク/USBについて

ネットワーク機器の接続

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（LAN）を構築します。



ヒント

- 各ネットワーク機器やインターネットへの接続には、個々の機器の設定が必要になります。これらの設定については、各機器の取扱説明書やメーカー /ISP（インターネットサービスプロバイダ）にご確認ください。

ホームネットワーク（LAN）について

複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。

家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワークを作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。

このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークはLAN（Local Area Network）と呼ばれます。

この取扱説明書では、このLANのことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。

NR-365はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。

このとき、NR-365とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。

パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク（LAN）構築に必要な機器

NR-365のNET機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

■ルータ

NR-365とパソコンや、NR-365とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。

ネットワークでは情報（データ）の流れをトラフィック（日本語では「交通」の意）といいます。ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- NR-365では**100Base-TXスイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP（インターネットサービスプロバイダ）と契約している場合（後述モデムの項参照）には、契約する**ISP業者が推奨するルータ**をご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されているISPにご相談ください。

■イーサネットケーブル（CAT-5（カテゴリー））

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、このイーサネットケーブルです。イーサネットケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- NR-365ではCAT-5に適合したイーサネットストレートケーブルを使用します。

イーサネットケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

■ネットワークサーバー（パソコンなど/ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時にNR-365に曲を提供する機器です。

- NR-365で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- NR-365で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（パソコンの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

■モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。

モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。

また、インターネットに接続するにはISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。

インターネット接続には、契約する**ISP業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器のうち、NET機能「ネットワークサーバー」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、ネットワークサーバーが必要になります。

NET機能「インターネットラジオ」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、モデム（およびISPとの契約）が必要になります。

サーバーについて

■ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

NR-365は以下のネットワークサーバーに対応しています：

- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- Windows Media Connect 2.0
- DLNA準拠サーバー

Windows Vista（ビスタ）®ではWindows Media Player 11が標準でインストールされています。

Windows Media® Player 11 for Windows XPはマイクロソフト株式会社のウェブサイトから無料でダウンロードできます。

ネットワークサーバーはNR-365と同じネットワークに接続していなければなりません。

1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。

ご注意

- メディアサーバーの種類によっては、NR-365から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

■リモート再生する

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA準拠のコントローラー機器やPCを操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルをNR-365で再生する機能です。

- Windows Media Player 12
- DLNA 1.5準拠のネットワークサーバー、コントローラー機器

※設定方法は使用するネットワークサーバーやコントローラー機器によって異なります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

Windows 7では、Windows Media Player 12が標準でインストールされています。詳しくは、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

USBデバイスについて

- NR-365ではUSB Mass Storage Class規格に対応しているUSBストレージを使用できます。
- USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、NR-365では複数のUSBストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- NR-365はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器をNR-365に接続しないでください。

ご注意

- 接続したメディアが対応していない場合、NR-365の表示部に「**No Storage**」というメッセージが表示されます。
- 著作権保護された音声ファイルはNR-365では再生できません。
- USB対応オーディオプレーヤーとNR-365を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面とNR-365の表示が異なる場合があります。またオーディオプレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）はNR-365では使用できません。
- NR-365の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。NR-365の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、NR-365でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- NR-365の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 電池で動作するオーディオプレーヤーを使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- NR-365はセキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

対応音声フォーマット

- NR-365で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。
- 下記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 11をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 11のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。

ご注意

- リモート再生では、NR-365は次のフォーマットには対応していません：FLAC、Ogg Vorbis、DSD、Dolby TrueHD

■MP3（.mp3または.MP3）

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■WMA（.wmaまたは.WMA）

- 著作権保護されたファイルは、再生できないことがあります。
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbpsおよびVBR
- WMA Pro/Voice非対応

■WMA Lossless（.wmaまたは.WMA）

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz（キロヘルツ）、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit（ビット）、24 bit

■WAV（.wavまたは.WAV）

WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■AAC（.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GPまたは.3G2）

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■FLAC（.flacまたは.FLAC）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■Ogg（オッグ） Vorbis（ボルビス）（.oggまたは.OGG）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：48～500 kbpsおよびVBR
- 互換性のないファイルは再生できません。

■LPCM（Linear PCM）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

* ネットワーク経由での再生のみに対応しています。

■Apple Lossless（.m4a/.mp4/.M4A/.MP4）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■DSD（.dsf or .DSF）

- 対応サンプリングレート：2.8224 MHz

■Dolby TrueHD（.vr/.mlp/.VR/.MLP）

- 対応サンプリングレート：48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

DLNAについて

DLNAとは、Digital Living Network Allianceの略称で、ホームネットワーク（LAN）によってパソコンやゲーム機、デジタル家電を相互に接続し、音楽や画像、動画などのデータをやりとりするための標準化を進めている団体の名称です。NR-365は、DLNAガイドラインV1.5に準拠しています。

ライセンスと商標について

x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。

dts-HD

米国特許：5,956,674; 5,974,380; 6,226,616; 6,487,535; 7,212,872; 7,333,929; 7,392,195; 7,272,567 およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。
DTS-HD、シンボル、DTS-HDとそのロゴはDTS社の登録商標です。製品にはソフトウエアを含みます。
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

DOLBY TRUEHD

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Pro Logicおよびダブル D記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Music Optimizer™は、オンキヨー株式会社の商標です。

HDMI HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMIロゴおよびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

InstaPrevue™

InstaPrevueおよびInstaPrevueロゴは、Silicon Image, Inc. の商標または登録商標です。

Made for iPod iPhone

iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle 、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれiPod、iPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。この製品とiPod、iPhoneを使用する際、ワイヤレス機能に影響する場合があります。

AUDYSSEY 2EQ DYNAMIC VOLUME

Audyssey Laboratories™からの実施権に基づき製造されています。米国および他の国々の特許申請中。
Audyssey 2EQ®、
Audyssey Dynamic EQ®および
Audyssey Dynamic Volume®は
Audyssey Laboratoriesの登録商標および商標です。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Mobile、Windows Media、ActiveSync、DirectXおよびInternet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Theater-Dimensional

Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。

AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

VLSC

VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。

主な仕様

AVレシーバー（NR-365）

アンプ（音声）部

定格出力 5チャンネル
35W（6Ω、全高調波歪率0.8%以下、1ch駆動時、1kHz、JEITA）(FL/FR/C/SL/SR)
1チャンネル
60W (3Ω、全高調波歪率0.8%以下、1ch 駆動時、100Hz、JEITA)(SW)

実用最大出力 5チャンネル
45W（6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA）(FL/FR/C/SL/SR)
1チャンネル
75W (3Ω、100Hz、1ch 駆動時、JEITA)(SW)

総合ひずみ率 0.08%（1kHz、1W）

入力感度/インピーダンス
LINE：150mV/47kΩ

周波数特性 10Hz～60kHz/+1dB、−3dB（DSP bypass）

トーンコントロール最大変化量
Bass：±10dB（50Hz時）
Treble：±10dB（20kHz時）

SN比 100dB（LINE、IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
3Ω～16Ω（SW）
6Ω～16Ω（FL/FR/C/SL/SR）

総合

電源・電圧 AC100V・50/60Hz
消費電力 105W
無音時消費電力 40W
待機時電力 0.1W
最大外形寸法 365（幅）×93.5（高さ）×304.5（奥行）mm
質量 6.9kg

■HDMI

入力 IN 1、IN 2、IN 3、IN 4
出力 OUT
映像解像度 1080p
音声形式 Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DVD-Audio、DSD
対応 3D、オーディオリターンチャンネル、DeepColor、x.v.Color、LipSync、CEC (RIHD)

■音声入力

デジタル OPTICAL：2
COAXIAL：1
アナログ LINE IN1、LINE IN2

■音声出力

サブウーファープリ
1
スピーカー 左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファー
ヘッドフォン 1（6.3φ）

■その他

セットアップマイク
1
イーサネット 1
USB 1（前面）、1（後面）
RI 1

サブウーファー（SWA-V50）

形式 バスレフ型
定格インピーダンス 3Ω
最大入力 70W
定格感度レベル 85dB/W/m
定格周波数範囲 45Hz～1kHz
キャビネット内容積 13.3リットル
外形寸法 246（幅）×307.5（高さ）×314（奥行）mm（グリルネット、ターミナル突起部含む）
質量 7.3kg
使用スピーカー 16cm OMFコーン型
ターミナル プッシュ式
防磁設計 無

フロントスピーカー（ST-V50）

形式 2ウェイ バスレフ型
定格インピーダンス 6Ω
最大入力 40W
定格感度レベル 81dB/W/m
定格周波数範囲 70Hz～80kHz
クロスオーバー周波数 8kHz
キャビネット内容積 1.3リットル
外形寸法 102（幅）×175（高さ）×128（奥行）mm（グリルネット、ターミナル突起部含む）
質量 1.2kg
使用スピーカー ウーファー：8cm　N-OMFコーン型
ツイーター：2cm　バランスドーム型
ターミナル プッシュ式
防磁設計 無
その他 グリルネット脱着可

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

※販売店の長期保証制度にご加入いただいた製品の保証期間内の修理は、お買い求めの販売店へご依頼いただくようお願いします。

■「送付」による修理をご希望の場合は

下記のオーディオリペアセンターへご送付ください。

〒682-0925　鳥取県倉吉市秋喜243番地
オンキヨー　鳥取オーディオリペアセンター　修理受付窓口宛　　050-3161-9555
（詳しくは）http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

（詳しくは）http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■「出張修理」をご希望の場合、その他ご不明な点は

下記のオンキヨー オーディオコールセンターへご相談ください。

オーディオコールセンター　050-3161-9555（IP電話）
（受付時間：10:00～18:00　土・日・祝日及び弊社で定める休業日を除きます）

※出張修理の際は、修理費用以外に出張費用が別途かかります。また、地域によっては、出張修理のできないエリアがございます。あらかじめご了承ください。

2012年1月現在　　住所、電話番号、受付時間などは変更になることがございます。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より１年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または本書「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名
  - BASE-V50
  - BASE-SW50
  - BASE-SW77V
  - NR-365
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は本書「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。
詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後８年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：　　年　　月　　日

ご購入店名：

Tel.　　(　　)

メモ：

メモ

ONKYO

オンキヨー株式会社
〒572-8540　大阪府寝屋川市日新町2-1

製品のご使用方法についてのお問い合わせ先：
オンキヨーオーディオコールセンター
☎ 050-3161-9555（受付時間　10：00～18：00）
（土･日･祝日･弊社の定める休業日を除きます）
サービスとサポートのご案内：http://www.jp.onkyo.com/support/

Y1302-2

SN 29401298A

(C) Copyright 2013 Onkyo Corporation Japan. All rights reserved.

* 2 9 4 0 1 2 9 8 A *